

全国産業安全衛生大会 2日目 特別プログラム 製造業安全対策官民協議会 特別セッション

厚生労働省、経済産業省、中央労働災害防止協会は、業種横断的に製造業における安全対策の検討や普及活動を行う初の官民連携協議会として、製造業の主要な業界の経営層とともに「製造業安全対策官民協議会」を設立しました。

この協議会では、製造業における安全対策のさらなる強化を図るため、官民が連携し、経営層参画の下、業種の垣根を越え、現下の安全に関わる事業環境の変化に対する認識を分析・共有しながら、既存の取り組みの改善策や新たに必要となる取り組みを検討し、企業における現場への普及を推進することを目的としています。

この官民協議会による「特別セッション」を下記のとおり開催いたします。



製造業安全対策シンポジウム（平成 29 年 3 月 28 日開催）

開催日 平成29年11月9日(木) 9:30～12:30

会場 神戸ポートピアホテル ポートピアホール

プログラム （一部内容が変更になる場合があります。）

1 有識者による基調講演

「これからの産業安全—経営層の役割—（仮題）」

2 企業における安全活動の好事例の紹介

3 パネルディスカッション

「製造業における安全対策のさらなる強化と経営層の役割
～トップダウンとボトムアップの融合による現場力向上～」（仮題）

パネラー：企業の経営層、有識者ほか 助言者：厚生労働省、経済産業省、中災防

リスクアセスメント／マネジメントシステム分科会

会場 神戸国際展示場 2号館 1階北 (神戸市中央区港島中町6-11-1)

11月9日(木) プログラム(9:00開場)

9:30	
① 類似災害撲滅に向けた取り組み ～「類似」定義明確化と総点検～ リコーインダストリー(株) 東北事業所 ものづくり統括本部 人材戦略センター 人材統括室 東北管理グループ 渡辺 稔	労働災害発生時に「類似災害の防止に努めます」という言葉をよく耳にする。しかし、類似の捉え方には個人差があり、類似作業を抽出する視点には部門ごとや個人の感性によってバラつきが発生している。そのバラつきを無くすために実施した当社の施策事例を紹介する。
9:50	
② 研究所の安全衛生活動の取り組みについて (株)神戸製鋼所 神戸総合技術研究所 開発業務部 総務室 安全設備グループ グループ長 檜野 由憲	弊社グループの研究開発拠点である、神戸総合技術研究所の安全衛生活動を紹介する。研究所は工場と比べて、非定常作業が多い、設備・改造が多い、設備導入を不特定の研究員が担当する、といった特徴がある。この特徴を踏まえた安全衛生管理の仕組みを構築し、適正に運用している。
10:10	
③ レール検査作業の安全化 ～Woman Powerでリスク解消～ JFEスチール(株) 西日本製鉄所(福山地区) 条鋼部 形鋼工場 高野 真帆	JEF西日本製鉄所福山地区形鋼工場ではレール製造を行っている。製品最終検査のネック解消のため、業務効率化を目的とした検査体制とエリア変更に伴い女性社員も検査作業を実施することになり、新たな安全上の問題が抽出され、女性ならではの目線と発想で問題解決に取り組んだ。
(10:30～10:40休憩) 10:40	
事例報告 挟まれ巻き込まれ 災害撲滅に向けた安全活動 宇部マテリアルズ(株) 生産・技術本部 美祢工場 環境安全室 岡嶋 寛太	入社一年目の若手社員による挟まれ災害を受け独自に立ち上げた「挟まれ巻き込まれ対策部会」におけるハード・ソフト両面の対策強化、特に若年者への施策をポイントとした安全活動の取り組みを紹介する。
11:10	
④ 「安全は一日にして成らず」地道なリスク アセスメント活動が安全職場への近道 (株)伊吹LIXIL製作所 総務課 チームリーダー 長谷川 俊夫	「安全は一日にして成らず」のもと、自分達の目でリスクを抽出し是正を行う安全活動自主研究会と、身近な危険体感から安全を意識させる安全道場での体感教育により、従業員自身が「自分の身は自分で守る」を実践し、安全でやさしい職場づくりにより、無災害の継続に取り組んだ内容を報告する。
11:30	
⑤ 労使が協力して行う事業場を横断した 安全監査の効果について NTN(株) 本社 人事部 労政・安全グループ 主査 小澤 利之	各地に点在する事業場間では、相互に安全状態の確認が難しく、特定の事業場で労災が多発する傾向が続いた。本社が主導し、労使で監査チームを結成して、リスクの高い労災に対して、対策状況や安全衛生活動の実施状況などを他者の目で厳しく確認を行い、労災件数を約3割減少させた。
11:50	
⑥ リスクアセスメント実施による「みんなが健康で安全に作業できる職場環境づくり」 川崎重工業(株) 明石工場 MC&EカンパニーSC本部エンジン製造部 第一工作課 班長 田中 一人	職場の安全状態を確立させるため、全員参加で計画的に改善活動を実施した。5Sの徹底および安全教育から始め、リスクアセスメントを行った。職場のリスクに対する認識を全員で共有し、安全対策について合理的に優先順位を決め、根本的な対策を実施。職場の安全確保を実現した。
12:10(12:10～13:00昼休み)	

リスクアセスメント／マネジメントシステム分科会

13:00

対談

JISHA方式適格OSHMS認定事業場に見られる安全衛生レベル向上について ～こうすれば、さらに良くなる安全衛生～

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科 教授

高野 研一

国立大学法人 東京工業大学
イノベーション科学系 技術経営専門職学位課程 特任教授

中村 昌允

(14:00～14:10休憩) 14:10

7 ビデオを使ってさらに発掘!手狭な低頻度作業のリスク低減

(株)小松製作所 小山工場
エンジン製造部機械課第1センタ

瀧澤 知弘

エンジン部品の加工職場で約300kgのカッター交換作業を行う際のリスクを低減するため、治具を作成したが、狭い機内に手を入れて作業するなど新しいリスクが発生。クランプ方法をボルトから蝶番型に変更して機械の外から作業できるようにするなど改善し、リスクを大幅に低減した。

14:30

特別報告

ISO45001およびJIS作成の最新情報と今後の展望

中央労働災害防止協会
技術支援部 次長 兼 ISO規格推進室長・ISO/PC283日本代表エキスパート

斉藤 信吾

ISO/PC283(ISO45001制作委員会)メンバーである演者がISO45001およびそのJISについて最新情報を報告する。併せて、ISO45001認証について今後の展望を紹介する。

15:00

パネリストディスカッション

ISO (JIS) 45001および新たなJISによる展開

パネリスト 明治大学 名誉教授・校友会会長

(株)テクノファ取締役会長

他 労働安全衛生マネジメントシステム導入事業場 パネリスト数名

助言者 経済産業省 産業技術環境局 基準認証ユニット 国際標準課長
厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課 主任中央産業安全専門官

司会 中央労働災害防止協会 技術支援部長

向殿 政男
平林 良人藤代 尚武
高橋 洋

南保 昌孝

17:00

11月10日(金) プログラム(9:00開場)

9:30

8 GaAs切片屋外運搬作業

DOWAセミコンダクター秋田(株)
基板製造部 リーダー

石井 貴志

多種多様なリスクに対し、2年間で計画的に取り組みテーマを完結。その結果、リスクレベルを4から1と大幅に減少させ、作業時間短縮の副次効果も得た。1チームのリスクアセスメント課題を会社全体の作業最適化の視点から抜本的に見直し、一部作業の廃止という本質的対策を実現した。

9:50

9 重大リスクの撲滅 「ホイールローダWA500ステアリングシリンダー組付改善」

(株)小松製作所 茨城工場
生産部 組立課 中型組立センタ 第一班

藤崎 達也

工場方針として重大リスク作業再点検を実施することになり、自職場ではクレーン作業に着目。同時に過去災害で実施した対策も点検し、改善を検討した結果、リスクが高くなった狭所でのクレーン作業を専用組付台車を作成することによって廃止し、リスクを大幅低減した。

10:10

リスクアセスメント／マネジメントシステム分科会

10 ゲルマニウム精製工場作業改善

秋田レアメタル(株)
製錬課 ゲルマニウム精製チーフリーダー

嵯峨 勇助

10:10

平成26年11月に建設した新建屋の完成に伴い、ゲルマニウム精製工場移設が決まり、これを機に前後の工程と距離が離れていたため発生していた、運搬作業等の改善活動をスタート。業者を使わずほぼ全ての改善を内製化で行い、リスク低減・作業負担低減・作業時間短縮等に取り組んだ。

11 油圧ショベル整備における、車両昇降時の転落防止

コマツ建機販売(株) 近畿カンパニー 和歌山支店
サービス営業

北浦 伸也

10:30

建設機械メンテナンス時に車両昇降動作が多く、転落による災害やヒヤリハット経験が多くあったことからテーマとして改善に取り組んだ。建設機械稼働現場は様々な条件があり、どんな条件にも対応できるステップを考案する必要があった。何度も試行錯誤を繰り返し安全なステップを完成させた。

(10:50~11:00休憩) 11:00

12 不安全状態排除に向けて安全活動もクオリティUP

日産自動車(株) 追浜工場
製造部 車体課

中島 伸幸

ヒヤリハット発掘内容からのリスクアセスメント物的対策が低迷しており、目標未達が続いている状況であった。この現状を打破するべく、組全員でリスクを共有化する事を念頭に対策の質を向上させ、物的対策にこだわり目標を達成した活動ストーリーを紹介する。

13 高炉羽口前での微粉炭ランス詰まり処置作業における安全化

(株)神戸製鋼所 加古川製鉄所
製鉄室

大保 英斗

11:20

微粉炭ランス内部での詰まりは強固であり、掃除棒での除去方法ではリスクが高く重大災害につながる。また、詰まり本数が増えると高炉操業が悪化しコストアップとなる。安全かつ確実にランスの詰まり掃除する方法を確立する必要性があり、ランス詰まり掃除治具の考案を行った。

事例報告 当所における安全衛生マネジメントシステムとリスクアセスメント活動について

新日鐵住金(株) 和歌山製鐵所
安全環境防災部 安全健康室 室長

平石 裕介

11:40

従来の災害対策型の安全活動から、あるべき姿を追求するPDCAをベースとした安全活動への転換を目的として取り組んできた安全衛生マネジメントシステムの内容、および現場のリスクを網羅的に管理するリスクアセスメント活動について紹介する。

(12:10~13:00昼休み) 13:00

14 リスクアセスメントを定着するための取り組み

(株)IHIビジネスサポート
安全衛生部 部長

清水 和雄

労働安全衛生法の2005年改正により、当社でも職場における危険性や有害性に対するリスク低減に取り組んでいるが、リスクの見積りにおいて従来の経験と勘に頼るような側面があったので、負傷・疾病(危害)を客観的にし、リスクの定量的な評価につなげた。

15 建築限界測定時のリスク低減について

東急テクノシステム(株)
電力工事事部 電力二課 主務

色井 健二

13:20

鉄道工事において建築限界の測定は重要な作業である。従来の測定方法は触車、墜落、感電等のリスクが重なる大変危険な状況下で行われていた。そこで作業の安全性を確保するために市販のレーザー式測定器に改良を加え、新たな測定器を開発したところリスクを低減することができたので報告する。

特別報告 中災防の安全衛生レベル評価サービス「J-First」の概要と効果的活用

中央労働災害防止協会 JISHA-ISOマネジメントシステム審査センター
認証審査課長 安全管理士

森田 晃生

13:40

OSHMSの認証審査はPDCAの仕組みと実施を見るものであり、安全衛生レベルの高さは計れない。J-Firstは、安全衛生のベストプラクティスをもとに18分野の基準を設定し、組織の状況と比較して安全衛生レベルや強み・弱みを示す。概要のほか事業場間のベンチマークなど活用法を紹介する。

14:10(14:10~14:20休憩)

リスクアセスメント／マネジメントシステム分科会

16 リスクアセスメント活動の取り組みによる恒久対策への道のり ～自部署の災害で得た教訓～

宇部物流サービス(株) 宇部事業所
生産加工部 機能品製造グループ ポリミッドチーム チームリーダー

竹内 博幸

14:20

2年前に自部署で発生した労働災害の教訓が、リスクアセスメント活動を見直すきっかけとなった。特に恒久的対策への道のりとして人・管理・設備での要因を分析、特定し対策を実施。この間の職場全員の「絶対再発させない決意」が多くの職場改善、収益改善に結びついた事例を紹介する。

17 女性作業者のためのフレームライン安全確保 ～私が活躍できる職場づくり～

(株)小松製作所 栃木工場
製造部 組立課 青木センタ

佐藤 里美

14:40

コマツ方針の女性が働きやすい職場づくりを目指した活動。組立ライン上で女性の体格差、腕力差からリスクレベルが上がる作業、苦渋作業となる作業が多数潜んでいた。セットレンチを長くする、部品台の高さを女性の背丈に合わせるなど対策し、女性に無理のない組立工程へ改善した。

18 安全確認手法によるリスクアセスメントの深度化について

(株)ジェイアール西日本テクノス 吹田支店
検修工事部 車両係

團野 貴之

15:00

JR西日本の協力会社における死亡労災を契機とし、準備段階から後片付けまで全ての作業におけるリスクを抽出・評価する安全確認手法によるリスクアセスメントに取り組み、従来見落としていたリスクが79件発見された。対策実施とともに残留リスクを管理し、引き続き労災防止に努める。

19 仲間を守れ!～タップサラエ作業の改善～

(株)神戸製鋼所 高砂製作所
鍛造事業部 機械設備部 鍛造加工室

霜浦 大輔

15:20

ネジ穴はタップでの機械加工の後、手作業でネジ深さを追加工する「タップサラエ」が必要である。しかし、大径ネジのサラエは危険かつ重労働で、実際にヒヤリが発生した。有効な対策がなく途中で諦めかけたが、新たな発想の対策をとることで、この作業を完全に廃止することに成功した。

15:40

安全管理活動分科会 (第1会場)

会場 神戸ポートピアホテル ポートピアホール (神戸市中央区港島中町6-10-1)

11月9日(木) プログラム(13:00開始)

特別報告

産業安全の現状と課題 ～第12次労働災害防止計画の取り組み等について～

厚生労働省 労働基準局
安全衛生部 安全課長

野澤 英児

13:00

労働災害発生動向を俯瞰するとともに、最終年度を迎えた第12次労働災害防止計画の行政の取り組み状況等について紹介する。

1 転落・落下防止プロジェクト活動による、ロータリ除雪車生産工程転落リスクの改善

(株)日本除雪機製作所
生産総括部 製造部長

小倉 幸則

13:30

転落事故による重大労災事故が発生したことを契機に高所作業の調査、洗い出しを実施。高所作業に使用する足場の内製化プロジェクトを発足。リスクアセスメントによる追加改善・見直しを実施。安全確保と作業性向上の両立した足場を製作し転落労災の再発を防止している。

13:50

安全管理活動分科会 (第1会場)

② 不安全状態・不安全行動の撲滅へ ～PDCAサイクルを回した安全衛生活動の展開～

サンデンホールディングス(株) 赤城事業所
サンデンビジネスエキスパート(株) 総務人事部 赤城事業所総務Gr
大巻 良太

13:50

全社員が毎日健康で安全で安心して働ける快適な事業所環境を実現するために、独自の安全衛生委員会体制を確立した。事務に関わる各種法令の遵守など専門的視点から職場を巡視する専門委員会を設置し、毎月PDCAサイクルを回しながら労災発生の未然防止を図っている。

(14:10～14:20休憩) 14:20

③ トヨタグループを挙げての重大災害ゼロへの 取り組みとトヨタ紡織(株)の安全活動

トヨタ紡織(株) 猿投工場
安全衛生推進室 監査推進グループ グループ長
川上 徹

トヨタグループ17社は「安全と健康はすべてに優先する」を基本理念に「何人たりとも構内で重大災害を出さない取り組み」を掲げ活動を実施してきた。今回は、活動を現地・現物で実行している安全衛生部会での活動・取り組みとトヨタ紡織株式会社における安全の諸活動を紹介する。

④ 全員参加による安全意識高揚運動パートII

KYB-YS(株)
第1製造部 部長
鈴木 勝典

14:40

安全意識高揚運動を進めた結果、個々の安全に対する意識が高揚し労働災害もこの1年で不休業1件と低減。しかし、各階層での感受性にバラツキがあることも判明し、さらなる意識向上を図るためにヒヤリ・ハット活動を充実し「リスクアセスメントとKY」に結びつけ「災害ゼロ」を目指した。

⑤ 俺たちの活動で危険の芽を摘み取ろう

日産自動車(株) 追浜工場
製造部 成形課
田中 隆行

15:00

無災害を継続させるため、安全推進員が主体となり試行錯誤を繰り返しながら、安全活動の活性化に取り組んだ。新たな活動と安全推進員のスキルアップを図ることで、課員全員の危険感受性の向上と危険要因の排除を目指したその活動と成果を紹介する。

⑥ 300撲滅活動の一考察～ベテラン編～

(一社)日本自動車工業会
安全衛生部会 Bグループ研究会委員
(日野自動車(株)安全環境推進部 安全健康推進室 係長)
矢部 寛

15:20

知識と経験が豊富なベテランゆえの不安全行動を抑止するにはどうすれば良いのか。災害の怖さ・重大さをしみじみと伝えて自分ごととしてとらえさせ、安全意識の高揚を図るための方策について、自動車メーカー7社が、会社の垣根を越えて共同研究した結果と事例を発表する。

(15:40～15:50休憩) 15:50

⑦ 共同作業のリスク低減活動 ～油圧ショベルのバケット装着作業取り組み～

(株)小松製作所 大阪工場
生産部 中型組立課
米田 武

バケット装着作業は車輛運転を伴う共同作業であり、ハイリスク作業となる。上下左右傾動が可能な特殊なリフタを導入することで、一人でできる作業方法を確立するとともに、作業手順を細かく決定し、ハンマを使用しない、手を添えない一人で安全にできる作業方法を確立した改善事例である。

⑧ 職場のピンチから生まれた安全3本柱活動 ～みんなでつくる安全の基盤～

トヨタ自動車東日本(株) 宮城大和工場
生産部 制御ブレーキ製造課 工長
川越 史樹

16:10

2013年から2014年にかけて連続して2件の災害が発生。特別安全職場に指定されたことをきっかけに職場の安全活動を見直すチャンスと捉え、標準作業の見直し、5S活動の活性化、安全に対する感性向上の3つの活動を中心に進め、災害ゼロを継続できる職場に変化していった事例を紹介。

16:30

部下との本音のコミュニケーションで 安全な職場風土をつくる

事例報告

マツダ(株) 防府工場
主幹
中村 基美

なゼルール違反は繰り返されるのか。職長を対象とした安全教育の中で、災害発生要因の本質に迫るべく連関図法(QC手法)を使い徹底した分析を行った結果、職長のコミュニケーション能力の課題が明らかになった。2016年に7ヵ月を掛けて行った、職長の『本音のコミュニケーション』研修の成果を紹介する。

17:00

安全管理活動分科会 (第1会場)

11月10日(金) プログラム(9:00開場)

9 端板バックの完全ノータッチ化

(株)神戸製鋼所 加古川製鉄所
薄板部 表面処理室 主任補佐

大久保 洵希

9:30

バック転倒作業中に危険を感じた報告によりノータッチ化を目指した。出側バックは周辺設備の制約により現場の構造を見直し、吊りアームを収納するというアイデアに行き着くまでが大変苦労した。実現したいという現場の熱い想いと試行錯誤の結果、設備の本質安全化を成し遂げた。

10 パイプ搬送不良を撲滅せよ! ～ライン内への手出し作業撲滅～

山九(株)
操業グループ

坂本 司

9:50

パイプ検査を担当している我々の職場では、搬送不良が発生する頻度が高く、その度にライン内に手出しをして手直しすることが自職場の大きな問題であった。そこで、パイプ抑えガイド、揺動スキッド、足踏み式可動スキッド等の設備改善を実施し、パイプ運送不良を撲滅した。

11 安全化改革プロジェクト活動報告

古河電工(株) 銅管事業部門
総務課 総務課長

重松 亮

10:10

一段上の安全活動を目指し、ひと・もの・しくみについて、それぞれワーキンググループを立ち上げて実施したプロジェクト活動を紹介する。特に全従業員に中防災「安全行動調査」を実施したことで、個人や職場ごとの特徴を把握し、従来と異なる切り口でアプローチすることができた。

12 住友化学のグローバル安全監査活動

住友化学(株) 東京本社
レスポンスブルケア部 技術信頼性監査 主席部員

中野 一美

10:30

本社組織による安全監査活動の改革に取り組み、今では全社と国内外グループ会社の安全活動に非常に有効なものとなった。問題点指摘だけの監査に、改善支援や人材育成を取り入れた。その間、失敗もあり、平坦ではなかった道のりを紹介して、皆様のご意見をいただきたい。

(10:50～11:00休憩) 11:00

13 おおさか東線東海道線橋架設(土木作業) での架線作業車(電気車両)の活用

西日本旅客鉄道(株) 大阪工事事務所
おおさか東線北工事務所 施設管理係

青木 貴志

おおさか東線建設にともない線路上空に鋼製桁を架設した。桁・梁のボルト接合等線路上空作業の作業床について検討した。線路内での仮設足場設置などの方法と比較し、架線作業車(電気工事車両)を使用することとした。安全施工のため各種施策を行い、約50回の作業を無事故で完遂した。

14 会話から始まる真因追求への歩み

(株)UACJ 名古屋製造所
製造部 鋳造課 ビレット鋳造職場 統括主任

石田 秀夫

11:20

我々の職場では、2015年1月に休業災害が発生させ、4年5ヶ月継続していた無災害労働時間が途切れた。職場内で危機感が生まれ、鋳造に関わる災害の水平展開活動を実施した。現地現物を基本とし、作業者との本音の会話を重視して作業の安全性と作業性を改善した事例を紹介する。

15 多種多様な製造部門を一つにまとめる 安全活動

JX金属(株) 日立事業所
環境安全部 技師

菊池 和彦

11:40

JX金属(株)日立事業所は、全社をまたがる各事業本部ごとの多種多様な製造部門により構成される。各部門の横のつながりを持たせてベクトルをあわせるために、種々の安全への取り組みを実施してきた。2010年当時毎年10件以上あった災害が徐々に減少し、2016年に“ゼロ災害”を達成した。

12:00(12:00～13:00昼休み)

安全管理活動分科会（第1会場）

16 神鋼神戸発電所における定期検査工事の安全確保の取り組みについて

(株)神鋼製鋼所 神戸発電所
発電部 発電室 係長

山本 幸治

13:00

神戸発電所では毎年2回定期検査工事を実施しており、総安衛組織の4割の作業量を占める大規模な工事となっている。この工事の安全を確保するため、工事施工会社の作業手順の文書化と1日4回の巡回パトロールによるきめ細かな指導による災害防止に努めており、この取り組みについて報告する。

17 本質的安全対策に向けたリスク低減の取り組み

西日本旅客鉄道(株) 近畿統括本部 網干総合車両所
台車センター 車両管理係

谷口 直之

13:20

鉄道車両のメンテナンスを行なう車両所において、台車を検査修繕する工程は重量物を扱う作業が多く、また仮置きやムダな搬送・作業があり、それらに起因する重大リスクがあった。作業手順や設備を改善することで作業ラインの整流化を図った結果、重大リスクを大幅に低減できた。

18 安全支援システム導入による一人作業の安全確保

新日鐵住金(株) 君津製鐵所
エネルギー部 エネルギー工場 エネルギー課

安岡 祥平

13:40

当職場は所内広範囲のエネルギー設備の点検を行う必要があり、一人作業での安全確保が課題であった。今回、安全支援システムを活用してエネルギーセンターとの相互確認、また作業者の行動確認が可能となったことで点検作業のリスクを大幅に低減させることができた。

19 自工場にあった取り組みで安全衛生向上を目指す

三菱マテリアル(株) 三田工場
事務部 総務グループ

高橋 理絵

14:00

弊社では電子材料を製造しており、少量多品種で人の介在する作業が多い。作業環境として、クリーンルームを含む小部屋が多く、特有のリスクが存在する。このリスクを解消するため新たな活動を適宜取り入れ安全衛生の向上に努めている。本発表では代表的な活動を紹介したい。

20 パール作業をなくせ! LTL通板作業の安全化

JFEスチール(株) 東日本製鉄所 西宮工場
ステンレス部 西宮ステンレス工場

赫田 了

14:20

ステンレス冷延鋼板を効率よく圧延するため、コイルの先後端にリーダー材を取り付けている。リーダー材は使用後、再使用のために洗浄を行う。この工程においては、通板のために転倒等のリスクが高いパール作業が多く発生していたが、若手中心に改善に取り組み、解決を図った。

21 ライナー運搬作業の落下防止活動

(株)神鋼製鋼所 加古川製鉄所
薄板部 熱延室 班長

北村 卓也

14:40

加古川製鉄所の上位方針に則り、最も危険なAランク作業を排除すべく取り組んだ。従来の作業経験差のあるアイボルト式の運搬から誰もが安全に作業できる専用吊り具式に改善を行った。他部署事例も無く、試行錯誤したが、外れ防止ピン機能含め全員の知恵を改善に反映できた。

15:00

安全管理活動分科会（第2会場）

会場 神戸国際展示場 2号館 1階南（神戸市中央区港島中町6-11-1）

11月9日（木） プログラム（9:00開場）

安全管理
②

特別報告

「Safe Work TOKYO」のこれまでの進捗と第12次防最終年度における取り組み

厚生労働省 東京労働局
労働基準部 安全課長

岩澤 俊輔

9:30

「安全・安心な首都東京の実現」に向け、“Safe Work TOKYO”をキャッチフレーズとして平成25年より開始した第12次東京労働局労働災害防止計画に基づく官民一体となった労働安全衛生活動に関する取り組みを紹介する。

1 仕上りを工事品質として捉えた定期修理の取り組み

(株)ダイセル 姫路製造所 網干工場
エンジニアリングセンター網干分室 機械チームリーダー

丸尾 勝也

10:00

作業人員3000人規模の定期修理を、工事安全と品質を厳守し、完遂するには、工場と協力企業が一体となった改善の取り組みの継続が必須である。1998年の工事安全と施工に関する基本ルールの制定を軸に、フランジ締付認定、工事リハーサルなどに取り組み着実に成果を出している。

2 マンネリ化したリスクアセスメントの打開活動

(株)アイセロ
製造本部 企画管理課 主査

伊奈 小織

10:20

「ゼロ災」達成に向けRAを実施しているが、毎年労災の発生がある。ハザードの抽出は現場任せで、気がつかない危険が潜んでいることは明らかであった。新たに動画を活用したリスクの見える化とRAを開始。リスクが明確になり、「考えよう・対策できるぞ」と製造現場を動かすきっかけとなった。

3 作業許可システム監査(WPA)導入による保全工事安全確保と安全意識向上への取り組み

JXTGエネルギー(株) 川崎製油所
環境安全グループ WPAリーダー

福原 茂雄

10:40

保全工事を対象として、現場での作業が工場手順通り行われているか専任チームによる作業許可監査を行っている。作業を止める権限も持ち、良好な作業を行っている監督や部署に対して表彰をしている。同監査を通じ工場手順の啓蒙や従業員、協力会社員の安全意識の向上に寄与している。

(11:00~11:10休憩) 11:10

4 「失敗学」の安全衛生活動への応用 ~「上位／注意概念」でKYT能力向上~

旭硝子(株) 関西工場 尼崎事業所
環境安全保安室 主任

高桑 彰生

弊工場では、失敗学の考え方を元に過去発生した災害事例から上位概念／注意概念を創出し、現場にあるリスクを見つけて低減する活動を行ってきた。今回、これまでの活動を通じ創出した注意概念をKYTで使用する試みを行ったので、その成果について報告する。

三菱ケミカル(株)水島事業所における安全活動について

三菱ケミカル(株) 水島事業所
環境安全部 企画・安全衛生グループマネジャー

西原 庸介

11:30

事業所の基盤となる保安・安全への強い思いを、従業員の一人ひとりまで浸透させ、安全管理活動を通じて、自ら考え、主体的に行動する人づくり、決めた事を守る職場づくりを進めている。

5 全員参加型の安全衛生組織構築について

日本クッカー(株) 伊丹工場
製造部 製造二課

平尾 茂照

(12:00~13:00昼休み) 13:00

2009年度より安全衛生委員会事務局の持ち回り制度を採用する事により全員参加型の安全衛生教育、ヒヤリハット活動、5S活動、改善提案、防災危機管理、各種資格取得など安全衛生全般のシステム構築がなされ休業災害の削減、従業員の安全意識の向上へとつながった。

13:20

事例報告

安全管理活動分科会（第2会場）

6 安全活動を統合して相乗効果を生み出し、安全文化定着への道筋をつける

有楽製菓(株)
品質保証部

待木 愛

13:20

従来の安全衛生委員会の活動では、4つの部会がそれぞれ独立して活動しており、会社で共有されていなかった。そこで、毎月30分の「安全講習会」を開催し様々な安全活動の情報を集中させ、KYT4R法を用いて社員にも活動に参加させることで、安全文化定着への道筋をつける。

7 転倒災害防止のための設備改善と従業員意識向上への取り組みについて

山崎製パン(株) 大阪第一工場
人事課

加藤 恵

13:40

当社の労働災害の特徴として、転倒災害の割合が多く、うち40歳以上の被災者が多くを占めている。そこで、40歳以上を対象とした安全研修を実施し、従業員の危険感受性を高めると同時に、現場内の危険箇所の改善と「整理整頓」を習慣化し全員参加の安心安全な職場づくりを目指している。

特別報告 兵庫第12次労働災害防止計画の現状と課題

厚生労働省 兵庫労働局
労働基準部 安全課長

山本 博一

14:00

兵庫第12次労働災害防止計画4年目が終わり、死傷災害は期間中最小となったが、15%減少という目標達成は困難な状況にある。このため、期間中の災害を分析し、増加傾向にある災害を洗い出し今後の対策を考える。

(14:30~14:40休憩) 14:40

講演 安全活動の目の付けどころ

安全と人づくりサポート
代表

古澤 登

『元氣な職場をつくる実践的安全活動(中災防発行)』の著者である古澤登氏(元トヨタ自動車(株)安全衛生推進部 担当部長)が、今一度、現在の安全活動を“重篤災害に的を絞った活動”という視点から見直しすることを提言。“ハードとソフトのバランス”“組織的取り組みの必要性”などのポイントを解説。

(15:40~15:50休憩) 15:50

8 基本動作の習慣化とKY活動による感受性・集中力・意欲の向上を実現する風土改革

(株)NTT東日本ー関信越 埼玉支店
設備部 埼玉サービスセンタ(浦和)

安納 進

平成27年度の「転落・感電・接触等による人身事故」の続発を受け、従来通りの事故発生都度の再発防止対応では事故は防げないと考えた。そこで、安心・安全の確保・徹底に向け新たな安全マネジメント体制を構築し、社員の意識改革・職場の風土改革を推進した取り組みを紹介する。

9 重大事故の撲滅に向けた取り組み～信頼回復に向けた抜本的対策の検討～

(株)ユアテック
発変電部 安全品質管理グループ 課長

管野 寿一郎

16:10

至近年、重大事故が連続して発生した。事故に至った経緯を見ると、施工管理面における基本的事項の欠如やスリップ現象による災害等、多岐に渡る要因が見られた。このため抜本的な対策を講じるために検討委員会を立上げ、背景要因も含めた課題を徹底的に洗い出し検討を行った。

10 基本動作を守り、守らせるための「KY・リスクアセスメント活動」について

名工建設(株) 安全本部
安全推進部 企画課

井上 亮

16:30

なぜリスクを回避できないのか。過去の事故事例を基に考えると、①現場実態を把握していない(リスク洗い出し不足)②危険を危険と認識できない(危険感受性が低い)③危険を知りつつやってしまう(危険敢行性)の3つに起因していると考えられる。これらを排除するための活動について報告する。

16:50

安全管理活動分科会（第2会場）

11 デジタルサイネージを活用した安全に関する情報伝達環境の構築

(株)NTT東日本-関信越 栃木支店
設備部 栃木サービスセンタ 主査

大網 優太

16:50

従来、安全に関する事故速報等はメールや掲示板にて情報配信をしていたが、メールを開封しない限り確認ができないことや、紙媒体の印刷や再掲示など手間のかかる状況となっていた。そこで、デジタルサイネージを導入し迅速かつ手間のかからない情報共有環境を構築した。

17:10

11月10日(金) プログラム(9:00開場)

12 無災害へ向けた日頃の活動結果が生み出した安全衛生優良企業の認定

パナソニック エコソリューションズ池田電機(株)
総務・人事部 課長

柴田 佳伸

9:30

無災害の継続と健康増進のために従業員全員への危険体感ルームでの安全教育の継続、職場安全パトロールの実施、全員参加の健康づくり、定時退社日の励行による時間外労働時間の削減など、日頃から取り組みんだ結果、安全衛生優良企業の認定を受けることができた。

13 ユニバーサルデザインを用いた、安全表示物の視認性改善および理解度の向上

三菱電機(株) 姫路製作所
総務部 安全衛生課

真北 晃彦

9:50

取り組み主旨:作業者視点に立って、誰もが見やすい、安全表示物の作成に取り組んだ。
活動前:作業現場・生産設備には様々な表示物が混在し、統一性がなくなっていた。
活動成果:視認性が高く、作業者が理解できる、統一性ある安全表示物に改善できた。

14 工夫を重ねたフォークリフト事故撲滅活動

コクヨ(株) ファニチャー事業本部
ものづくり本部 芝山工場
生産技術グループ 製作課長・安全管理者

森 茂樹

10:10

2012年度、工場内でのフォークリフトの物損が多発。このままでは人身事故につながりかねないという危機感から、フォーク事故撲滅活動を推進した。場内横串での「安全運転推進者活動」を立ち上げ、安全運転パトロール、自主製作ビデオ、実地テスト、ルール改正等を展開した。2015年10月以降フォークでの無事故継続中である。

15 HARIMA-NASAによる安全管理活動の見える化推進で播磨本質安全を目指す!

川崎重工業(株) 播磨工場
プラント環境カンパニー 生産本部 製造部 工作課 職場長

岡本 尚也

10:30

昨年の反省をもとに一步一步地道な安全衛生管理活動を全員参加で実施している。特に安全作業基準の周知・遵守の徹底と安全管理活動の見える化推進に注力している。見える化推進においては、各職場の強み弱みを見える化し、弱みの補完対策を実行することにより現在も無災害を継続中である。

(10:50~11:00休憩) 11:00

16 トラックからの転墜落防止活動

日新運輸工業(株)
安全環境グループ 係長

中野 征剛

トラック荷台からの転落による災害を発生させた。構内作業では多数の運送業者の車輛が出入りするため、対策が困難であった。しかし、「トラック荷台からの転墜落災害をゼロにする」というトップの強い決意で多くの改善に取り組み、転落災害ゼロを継続中。

17 チャレンジサークル活動における職場改善および作業改善の取り組みについて

日本通運(株) 神戸支店
業務(安全)課長

別所 邦彦

11:20

人とフォークリフトによる接触事故が発生し、類似事故再発を防止するため現場独自の確認シートを作成した。また、フォークリフト指導員による添乗指導や集合教育、構内ルールの見直しを図り職場全体の安全意識向上を目的とした取り組みを行っている。

11:40

安全管理活動分科会（第2会場）

18 当事業所における安全衛生活動の取り組み ～職場ミーティング改善活動について～

川崎重工業(株) 兵庫工場
車両カンパニー 企画本部 人事総務部 安全衛生課 工師
櫻木 慎二

11:40

職場ミーティングの改善として、安全衛生を意識したゼロ災ミーティングへの転換を図った。事業所内への指導では、リーダーからの一方通行的なものではなく、メンバーが積極的に発言する流れとなることに重きを置いた。また、指導が一巡した後の風化防止への取り組みも行っている。

(12:00～13:00昼休み) 13:00

事例報告 「現場所長の作業についての思い」を日々伝えること ～姫路城修理工事を無事故無災害で～

姫路城大天守保存修理JV工事事務所
鹿島建設(株) 所長

河原 茂生

国宝姫路城の立地条件下には、数多くの作業制約がある。消防法により火気使用禁止。史跡のため地盤をいじれない、1つたりとも落下物・飛散物は許されない。すべてが難工事で特に「素屋根解体」は白亜の城となった姫路城を損傷させてはならない使命感での作業であるが、見事に安全に完成できた。

19 大型木箱梱包作業における高所作業の 安全化

コベルコ シンワ(株) 高砂事業所
機械梱包室 室長

芹澤 英治

13:30

(株)神戸製鋼所機械事業部門から出荷される大型製品の梱包作業において新梱包方法を構築し、リスクが高かった作業の安全化を達成。高さ5m以上の大型木箱の梱包における天井面の施工方法を部材のユニット化・高所作業車使用にて抜本的に見直し足場の確保等の安全化を図った。

20 キリンビール(株)神戸工場の安全への 取り組み

キリンビール(株) 神戸工場
エンジニアリング・環境安全担当 部長

北村 武夫

13:50

操業開始以来2年連続して災害0を達成したことがなく、「安全絶対最優先」の風土醸成と、災害“0”達成を目標に、個人の安全意識向上を図る施策に重点をおいて活動している。メンバーへの浸透は道半ばであるが、リーダーを中心に意識醸成は定着してきている。

21 仕組みと人に着眼した、全従業員参画の 機械安全の推進

ダイキン工業(株) 淀川製作所
化学事業部 EHS部

塔尾 充

14:10

当製作所は、「自主的・自律的に危険要因を排除し、対策・改善をやり続ける人・組織」を目指す姿として日々の安全活動を行っている。今回は、仕組みと人に着眼し全従業員参画で、機械安全(リスクアセスメント)を愚直に推進・定着させた取組事例を紹介する。

22 安全を支える5S活動 ～風土でつくる安全職場～

川崎重工業(株) 西神戸工場
生産本部 生産技術部 ものづくり推進課 専門職

下川 善弘

14:30

製造現場では、ハンドリング等まだまだ人に頼る作業は多く、様々な災害ケースに対し、知識教育やハード面だけでこれらを解消することは難しい。異状をいち早く発見することで、安全の先取りを目指した、弊社の5S活動を柱とする安全職場づくりの取り組みについて紹介する。

14:50

安全管理活動分科会（第3会場）

会場 神戸国際展示場 2号館 3階A会議室（神戸市中央区港島中町6-11-1）

11月9日（木） プログラム（9:00開場）

① 近隣化学会社が組織する協議会が取り組んだ39年間の安全活動 新日鉄住金化学（株） 広畑製造所 環境安全室 室長 神田 恵一	9:30 姫路労働基準協会には化学会社を主とした化学災害防止協議会の組織があり、2部会（当初3部会）の各社が抱える安全衛生等の課題や知識を共有化し、互いに切磋琢磨と自己研鑽を行いながら目標である労働災害撲滅を目指した活動を継続しており、活動成果は毎年協会企業に紹介している。
---	---

② 排水タンク更新工事の工事前リスクアセスメントの取り組み エコシステムリサイクリング（株） 東日本工場 製造グループリーダー 森田 行雄	9:50 タンクの更新工事を行う際、出来上がったものに対してのRAだけでなく工事前RAを行い、事前にできることは事前対策として10件実施、また、それ以外の考えうるリスクに対しては工事業者に工事KYとして16件提供し活用した。その甲斐もあり工事は円滑に滞りなく終了できた。
---	---

③ 運転制御センター業務の相互観察による作業安全とヒューマンエラー防止に向けた取り組み 中国電力（株） お客さまサービス本部 配電工法・安全グループ 担当課長 三宅 功	10:10 協力工事会社の災害やヒューマンエラーによる停電を防止するため、配電関係作業に関与する運転制御センターが「相互観察」することにより、相違点の発見やより望ましい業務方法を体験することで、良い点と気づきを共有し、自所の業務運営に反映させる新たな取り組みを実施している。
--	---

④ 終わりにき!ゼロ災活動への取り組み! カルソニックカンセイ岩手（株） 総務チーム 安健係長 佐々木 年男	10:30 2014年度よりグループ会社内でSESという指標に基づいて全工場が横並びになって活動が始まった。自分たちでは悪くないと思っていたものの、グループ会社でワーストの結果になってしまった。そのようななか、大きな災害を発生させてしまい、目から鱗が落ちた。そこからの安全活動について紹介する。
--	---

（10:50～11:00休憩） 11:00

⑤ 作業ミス防止に向けた意識改革～責任者の明確化による腕章着用の取り組みについて～ 九州旅客鉄道（株） 大分鉄道事業部 大分車両センター センター長 高田 和重	検修業務において作業後に後確認を行うことは安全安定輸送に不可欠である。後確認不足による作業ミスが多発し、掲示を活用し注意喚起に努めたが、意識は時間とともに低下した。責任者腕章を着用する取り組みを実施することで作業者の責任を明確にし、作業ミス防止を継続している。
--	---

⑥ 直方保線所の「見える化」について 九鉄工業（株） 北九州支店 軌道課 所員 福永 裕次郎	11:20 点呼の「見える化」を実施し安全の意識づけを行った。①モバイルプロジェクターを用いて写真・略図・器具搬入箇所等を指示②夜間見えにくい箇所の危険要因の排除③過去の事故事例を「事例集」にて紹介。また、理論としてエビングハウスの忘却曲線を説明し、繰り返し安全意識の向上を図る。
--	--

⑦ 検電・接地ビジュアル化による感電事故防止 東日本旅客鉄道（株） 新潟支社 新潟電力技術センター 電気技術係 中澤 孝弘	11:40 三大労働災害のひとつである感電事故を防止するために色々な教育・訓練を行っている。新入社員には基本を徹底的に教育しているが、数年経ち中堅になると我流になる傾向がある。そこで感電防止の基本である検電・接地をDVDでビジュアル化し、再教育を行うことにより感電防止を図った。
---	---

12:00（12:00～13:00昼休み）

安全管理活動分科会（第3会場）

8 災害と健康の先取りで身を守れ

東急電鉄(株) 鉄道事業本部 運転車両部
元住吉車掌区 車掌

植草 英人

13:00

普段災害を予測していない箇所の業務災害に着目し災害0を目指した。乗務中の眠気を防止するため食事の摂取方法を工夫し、さらに肥満予防、血糖値を抑えることで取り組みを実施したが、個々の食生活を変えることは難しかったが、食品カロリーをわかりやすく伝えることで健康増進を図った。

9 小さな危険も見逃すな 転倒災害ゼロへの挑戦

西武鉄道 電気部 飯能電気所 小手指支所
飯能電気所 副所長

伊藤 幸男

13:20

作業中に体験した危険を集計すると「転倒」に関するヒヤリ・ハットが最も多い。「触車・感電・墜落」と比較すると危険の重大性が低いこともあり十分な対策が施されてこなかった。今回危険箇所シートを活用した作業前KYを実施することで転倒災害防止を図る安全手法を紹介する。

10 次代へ伝える危険箇所。これまでの危険な経験 を次の世代に伝え、事故防止を図るために

東日本旅客鉄道(株) 千葉支社
新小岩保線技術センター 施設技術係

山口 肇

13:40

列車と隣合せの作業環境下において、ベテラン社員が経験した危険な箇所を限られた時間で若手に伝えることは困難である。そこで、安全の技術継承として次代に伝える危険箇所(JTK)のビジュアル資料を作成し、経験値と安全意識を確実に次の世代へ伝え、事故防止を図っていく。

11 最大の敵(睡魔)への挑戦 ～安全・安定輸送の実現に向けて～

九州旅客鉄道(株)
鹿児島乗務センター 運転士

敷根 侑喜

14:00

乗務員は、不規則な勤務で睡眠不足に陥りやすい業種である。効果的な仮眠方法を自ら学び、職場全体に周知し、仮眠環境を整えることが事故防止につながると考えた。そこで、休憩室に仮眠室を設置し、乗務中の覚醒度を高めた。設置後、当乗務センターでは眠気による事故は発生していない。

(14:20～14:30休憩) 14:30

12 問いかけ「良えんか、悪いんか」

九鉄工業(株) 北九州支店
土木課

大江 脩平

国道3号線大川橋交差点大川橋架け替え工事における安全の取り組み。①新規入場者教育・安全設備・朝礼時の安全指示。②現場での取り組み、作業員が不安全行動をしそうな時の問いかけの実施。③ひとりKYの実施等を行い、日々の作業に潜む危険要因を洗い出し、自問自答を繰り返す。

13 安全意識の感受性を高め自ら考える労働 災害防止の取り組みについて

東武ステーションサービス(株) 坂戸駅管区
東松山駅 助役

竹倉 義人

14:50

当職場では、個人の知識・技能レベルの違いに加え、経験や年齢によって労働災害に対する意識の違いが課題となっていたが、若手社員とベテラン社員のコミュニケーションの「きっかけ」を与えることで、所属員全員に同じ知識、同じ意識を持たせ、より安全な職場づくりに取り組んでいる。

14 鉄道橋のマクラギ交換工事に伴う調査時 の墜落防止対策について

東日本旅客鉄道(株) 盛岡支社
一ノ関保線技術センター 施設技術係

木村 成克

15:10

当社では「触車」「感電」「墜落」を三大労災としてその防止に努めている。橋梁上のマクラギを交換する場合、本体交換工事では仮設足場を設置するが調査時には設置しない。当該橋梁は条件が悪いことから労働災害を防止することを目的に調査用の仮設足場を設置し墜落防止に努めた。

15:30

安全管理活動分科会（第3会場）

15 在姿車輪旋盤にて発生する切粉取り扱い時のリスク低減に関する研究

東海旅客鉄道(株) 東海鉄道事業本部
神領車両区 車両技術係

伊藤 健児

15:30

鉄道車両の車輪は走行することで摩耗する。在姿車輪旋盤を用いて削正を行うが、その際に鋭利な切削屑が発生するので作業者は保護具を着用することで身を守ってきた。本研究ではリスクアセスメントを行い、本質的な対策や工学的対策を実施することで、作業者が切削屑に触れることをなくした。

(15:50~16:00休憩) 16:00

16 雨量規制時の効果的な点検を目的とした点検用カルテの作成

九州旅客鉄道(株) 筑豊篠栗鉄道事業部
工務 土木・運輸係

木本 恭介

雨量による運転規制時には、工務社員による現場点検後の規制解除となるため、経験の少ない社員でも効果的に点検できるツールとして、点検用カルテを作成した。作成において、写真・イラスト・ポイントを意識することで、災害危険箇所を漏れなく確実に点検できるようにした。

17 懸垂がいし取替金具の考案による懸垂がいし取替作業方法の安全性向上

東日本電気エンジニアリング(株) 秋田支社
秋田サービスセンター 技術係

佐藤 祐治

16:20

羽越線の電化設備は特殊な設備が多く、特にき電線がいしの取替作業では墜落防止用補助ロープを取り付ける位置が腰よりも低くなり、危険な状態だった。そこで、き電線がいし取替金具を考案し、補助ロープが安全に取り付けられるようにした。この金具は作業が安全かつ容易になるよう工夫した。

18 検修作業等における感電防止対策

西日本旅客鉄道(株) 後藤総合車両所出雲支所
仕業機動班 車両管理係

新田 晃大

16:40

職場にて電車の電圧測定時にあわや感電につながる事象が発生し、リスク懇談会を実施した。通電状態でなければできない作業に着目し、感電につながるリスクを洗い出した。印加部を保護カバーで覆ったり絶縁テープを巻く等の感電防対策を通じて若手社員のリスク感度を高める取り組みを行なった。

17:00

11月10日(金) プログラム(9:00開場)

19 安全の伝承 ～事故「ゼロ」を目指して～

東京急行電鉄(株) 鉄道事業本部
工務部 工事事務所 技術員

菅原 哲也

9:30

当職場では、主に改良工事の統括管理を行っており、列車運行および鉄道利用者の安全の確保が最重要の責務である。しかし、毎年事故が発生しているのが実情であり、同じ事故を再発させないよう、事故「ゼロ」を目指すべく、年間を通じて行っている取り組みについて紹介する。

20 墜落労災防止のチェックシート作成

北海道旅客鉄道(株) 岩見沢線所
施設技術係(土木)

魚住 清

9:50

鉄道工事にあつては、触車・感電・墜落の三大労災が発生する危険性が非常に高く、とりわけ墜落労災に関しては対策に苦慮している。その対策の一環として、既存設備および仮設足場施工後の危険箇所の抽出ならびにその対策を講ずることを目的とした、墜落労災防止チェックシートを活用している。

21 御着駅構内改良工事 ～安全見える化等の事故防止の取り組み～

大鉄工業(株) 神戸支店
姫路出張所 主任

中田 義宏

10:10

JR山陽本線御着～姫路駅間新駅開業に伴い、御着駅構内2番線の有効長を延伸する工事において、ケーブル等切断による輪走障害、重要構造物の損傷および列車との接車などの重大事故を防止するため、危険箇所や作業手順の見える化などを行い、無事故無災害で施工できた事例を紹介する。

10:30

安全管理活動分科会（第3会場）

22 「事故の芽・種」活動 ～ひとりの気づきがみんなの安全に～

相模鉄道(株)
安全推進部

大友 一由

10:30

日常業務で危険に感じたこと、気づいたことを報告することで、事故・災害を未然に防止し、さらには周りの仲間を事故・災害から守ることにつながる。事故や災害になる前の段階で危険の芽を摘み、安全の花を咲かせるために、「事故の芽・種」活動を推進している。

(10:50～11:00休憩) 11:00

23 リスクアセスメントを用いた設備改善によるリスクの低減

東京急行電鉄(株) 運転車両部
雪が谷検車区 技士

山内 勇作

当職場では「設備危険個所の改善活動」を目標にリスクアセスメントを行った。重量物運搬時のリスクレベルが高く「線路横断通路」および「ブレーキシュー置場」の改善に取り組んだ。その結果運搬台車が安全に走行でき、重量物の運搬回数が削減したことでリスクレベルが低減した。

24 鎌瀬・瀬戸石間災害応急に伴う安全対策

九鉄工業(株) 熊本支店
土木課 係長

山口 宏

11:20

平成27年8月台風15号が熊本に上陸。法長300mが崩れ、夜間作業で仮土留工を施工するなか、二次災害を起こさない安全対策を検討し施工した。①夜間でも対岸から監視員を配置②50m先まで見える照明設備を配置③土石流警報装置を配備④横木矢板を一体化してクレーンで降ろす等。

25 安全の取り組みと反省点

(株)ジェイアール西日本テクノス 下関支店
車体部 総括班長

宗像 孝哲

11:40

当社下関支店では毎年2件程度の労働災害が発生していた。そこで、過去の労働災害を見える化することにより平成27年度は労働災害ゼロを達成した。しかし、28年度には未認識のリスクを含む労働災害が2件発生した。今回の反省を踏まえて、未知のリスクを見い出していく。

(12:00～13:00昼休み) 13:00

26 「安全・技能伝承館」の活用 ～安全風土のさらなる醸成～

九州旅客鉄道(株) 小倉総合車両センター
総務課 車両技術係

楠木 正明

当センターで毎年発生している労働災害を撲滅するため、様々な体感器具を設置・過去の労働災害事例を掲示している「安全・技能伝承館」を利用した教育を実施。車両検修業務における危険を模擬的に体感させることで「危険の芽」に対する感受性を高め、安全を風化させないための教育を展開した。

27 島式ホーム構築における安全対策 ～JR神戸線摩耶駅の事例～

大鉄工業(株) 土木支店
土木工事部 主任

金山 幸司

13:20

東海道線六甲道・灘駅間の新駅設置に伴ってホームを構築するにあたり、鉄道の安全・安定輸送の確保、架線感電や列車への接触災害等、作業員の重大労災防止に資するため、線路断面構造や軌陸クレーンによる作業方法、線路立入防止柵仮設等で工夫した取り組みを紹介する。

28 労災防止教育の構築と深度化および定着化

東海旅客鉄道(株) 東海鉄道事業本部
名古屋運輸区 指導運転士

池ヶ谷 伊織

13:40

当職場で3件もの労災が発生した当時、どうしたら労災防止意識が高まるか悩んで辿り着いたのがこの労災防止教育、セーフティスクールである。300人以上の当区員を巻き込むことや危険な状況の再現は一苦労であったが、職場に根づく取り組みに進化させ定着させることができた。

14:00

安全管理活動分科会（第3会場）

29 電柱傾斜管理・監視装置活用による安全および作業効率化の取り組み

東日本旅客鉄道(株) 八王子支社
八王子電力技術センター 助役

大内 一成

14:00

当社では、神田・秋葉原間電化柱倒壊事故に鑑み電化柱等の傾斜を現地にて傾斜計を用いて手測定で行ってきた。測定には、日中列車見張員を配置して行うため多くの苦労と触車の危険性があった。そこで、日中線路に立ち入ることなく車上から安全な環境のもと測定できる監視装置を開発した。

30 ロックアウト/タグアウト、インターロックによる感電防止

西日本旅客鉄道(株) 福知山支社
福知山電車区 車両管理係

安藤 雅和

14:20

感電については、車両検修職場においても高圧回路(1500V)を扱う機会が多く、それらの取り扱いについてルールは定めているものの、競合作業時においては感電リスクが高まる。札等による注意喚起よりも確実にリスクを低減させる方法を検証した。

14:40

機械・設備等の安全分科会

会場 神戸国際会議場 国際会議室（神戸市中央区港島中町6-9-1）

11月10日(金) プログラム(9:00開場)

1 「じしん」に強い設備づくり ～自ら判断する熱処理炉～

JFEスチール(株) スチール研究所(知多地区)
鋼管・鋳物研究部

物延 靖記

9:30

私たちの職場では、多種多様な鋼管を開発している。目的の特性を付与する熱処理作業では、火傷や挟まれリスクがあったが、改善活動により全てのリスクをなくすことができた。また、地震発生時に被害を未然に防ぎ、誰でも安全に作業できる熱処理設備を創り上げることができた。

2 地中配電線管路工事における電柱倒壊防止装置の開発について

(株)ユアテック 青森支社
工務部 土木建築課 副長

菊地 尚文

9:50

地中配電線管路工事では電柱にケーブル立上り保護管を設置する際の電柱きわ掘削に伴い、電柱根入れ深さの減少により、電柱が傾斜、倒壊する危険性がある。このような電柱傾斜、倒壊事故を防止するため、安全で確実に電柱を支えかつ現場で手軽に設置できる電柱倒壊防止装置を開発した。

事例報告 食品機械産業における社会人エンジニアに対する安全設計能力開発プログラムの開発

(一社)日本食品機械工業会
事業部 部長

大村 宏之

10:10

安全規格の理解には専門知識が不可欠である。エンジニアの安全設計への取り組みを支援するために開発した、安全設計資格認定制度とリンクした能力開発プログラムを紹介する。

3 ホットレベラー作業リスク低減への挑戦

(株)神戸製鋼所 加古川製鉄所
厚板部 厚板室 庄延係

宇都宮 弘太

(10:40~10:50休憩) 10:50

厚板室では、これまでも幾度となくリスクアセスメント活動に取り組み、高リスクを排除してきた。ところが、リスクの再評価を行うなかで、作業の慣れから見落とされている危険リスクが存在していることに気づいた。そこで、これらのリスク排除に取り組んだ活動である。

11:10

機械・設備等の安全分科会

4 3Dモデルを活用した設計時リスクアセスメントと機械安全の推進

(株)田代鉄工所
プロジェクト推進グループ

滝田 慧

11:10

弊社は産業機械の設計・製作にあたって、機械安全に注力し、リスクアセスメントを強化してきた。近年、弊社では3D-CADによる3D設計を実施しており、設計の成果物である3Dモデルを有効活用した、より実際の稼動状態に近い状態で視覚的に危険源を洗い出す手法を紹介する。

5 神戸製鋼所構内鉄道輸送におけるリスク撲滅活動

神鋼物流(株)
原料・運輸本部 神戸原料運輸部 神戸輸送室

北野 由樹

11:30

神戸製鋼所・神戸製鉄所構内の鉄道輸送をより安定的に行うべく、業務におけるリスクを洗い出し、設備改善を含めた業務改善に取り組んだ以下の内容を紹介する。①同一エリア内での複数機関車作業の規制 ②信号表示灯の自社開発 ③軌道冠水にも影響されない設備改善

6 若手目線によるNC旋盤の安全確保

(株)神戸製鋼所 高砂製作所
機械事業部門 高砂加工部 部品加工室 班長

芦田 淳

11:50

私達の職場は熟練1名と若手5名の計6名で構成されている。熟練作業者にとって何気ない作業でも若手作業者にとっては、やり難い作業となっている。そこで、やり難い作業を洗い出し、転落・切創・挟まれ・誤操作について改善活動を実施したことで全ての危険要因を排除することができた。

(12:10~13:00昼休み) 13:00

事例報告 帝人グループにおける機械安全への取り組み

帝人(株) 東京本社
CSR・信頼性保証部 環境・安全グループ 安全衛生担当課長
別府 秀樹

帝人グループにおける機械安全への取り組みとして、回転機械に対する安全対策を推進している。その特徴は①トップダウン型、②リスク評価方法および対策基準の標準化、③対策実施のPDCA管理の3点である。労災ゼロ達成を目指して取り組む中での現状と課題を紹介する。

講演 “しくみ”を用いた安全確認型システム

TI安全リスクアドバイザー
代表

石原 立憲

13:30

機械設備は安全確認型システムにしなければ人の確定的な安全確保はできない。このシステムを電氣的制御を用いずにフルプルーフな仕組みで構築する「しくみ」を用いた安全確認型システム」を考案した。本法は簡単・安価で新設のみならず既存設備の安全化に有効である。

(14:30~14:40休憩) 14:40

7 かえよう!楽にしよう!リフター台車～からくり改善で自動ロック化へ～

愛知製鋼(株)
鍛造工場 工機課 型管理係 班長

園山 篤司

弊社鍛造工場工機課は、プレス機械の型を製作管理を行う部署である。工場内には型移動用の油圧台車が多数ある。油圧操作を誤ると、台座部が急降下するリスクがある。下降防止のロックを設置したが、手動でのセットであるため忘れる可能性があったので、からくり改善で自動ロック化を実現した。

8 冷延地区ライン内区画見直しによる安全化～ライン内に入んナイ～

JFEスチール(株) 東日本製鉄所(千葉地区)
制御部 冷延制御室

土井 雄介

15:00

職場意識アンケートで、条件設定せずにライン内に入った人が8人もいた。このため、保全モラルの改善・ルール違反の撲滅を目的にライン内区画の見直しを操業・設備側とも話し合い、安全柵の変更・機側盤の移設を行った。その結果、安全に保全業務を遂行できる作業環境改善ができた。

9 船用ガスタービンエンジン組立職場のリスクレベル低減

川崎重工業(株) 明石工場
ガスタービンビジネスセンター 生産総括部 製造部 第三工作課 班長

手操 保典

15:20

班長任用時の安全衛生教育として、リスクアセスメントの手法を活用し、担当のガスタービンエンジン組立・分解作業に潜む危険有害要因の対策を実施した。重大災害の防止を図るとともに不安全状態を改善し、リスクレベルを低減することで、安心して働ける職場を実現できた。

15:40

安全衛生教育分科会

会場 神戸国際展示場 1号館 2階B (神戸市中央区港島中町6-11-1)

11月9日(木) プログラム(9:00開場)

① RSTトレーナーとして地域に根ざした「あんぜん」教育に取り組む活動報告

兵庫県RSTトレーナー会 会員

藤原 都子

9:30

兵庫県RSTトレーナー会は、参加会員の能力向上を目標に日々の活動を行ってきたが、本部解散後この人的資源の集団を無くすことは大きな損失と考え、「あんぜん」指導の専門家集団として法人化し責任を持てる活動に取り組むことにした。これらの経緯の活動報告を行う。

② 危険箇所の見直しによる「危険を感じとる感性」を磨く取り組み

東日本旅客鉄道(株) 長野電力技術センター
電気技術係

徳武 良匡

9:50

自職場における2件の墜落事故を受け、保守エリアにおける危険箇所を再度見直すこととした。全社員で危険箇所を見直すにあたり、全て写真による見える化と、それぞれの状況および対策を記載することにより、危険であるという認識の共有と、危険と感じとる感性を磨く取り組みとなっている。

③ どうすればより相手に伝わるかを意識した体感訓練によるリスク軽減の取り組み

名工建設(株) 京都新幹線軌道事務所
大阪軌道部 京都新幹線軌道事務所長

西川 渉

10:10

脱線防止マクラギ交換は、狭い箇所で重機であるバックホーと作業員とが輻輳する危険のある作業環境となっている。最近、作業員に慣れによる油断意識も感じられたため、作業員目線の体感訓練を行うことで「自分は大丈夫」から「自分も危ない」との意識向上を目的とした取り組みを紹介する。

④ 「安全道場」による安全教育の取り組み

川崎重工業(株)
人事本部 安全保健部 安全課 主任技士

富永 寒剛

10:30

全事業所の生産現場で働く従業員を対象として、危険体感教育とは別に安全意識の向上を目的とし2015年12月から安全道場を開設し、映像や展示場により、過去の災害を心に刻み、安全意識を高め、危険に対する感受性を磨き、自らの行動に反映し、安全行動でできる人材を育成している。

(10:50~11:00休憩) 11:00

⑤ 身体機能の衰えを自覚させ改善を意図した高齢者研修を通じた安全活動について

(株)ジェイアール西日本メンテック
安全推進部 主席

今井 雄太

従業員の6割を占める準社員の高齢が進み、転倒等による受傷事例の多くを占めるに至り、高齢者向けの「身体機能を学び身体能力の自覚を通じて改善を目指す」研修を少人数制で毎週開講している。研修の組み立てから運営に工夫を凝らし好評を得ており、労災千人率の減少にも寄与した。

⑥ 新たな安全教育方法の確立～ルール・手順の本質を伝えなければ～

東日本旅客鉄道(株) 仙台支社 新幹線総合車両センター
輸送管理科 車両技術係

田代 弘平

11:20

なぜ同じヒューマンエラーが繰り返し発生するのかを追及した結果、安全教育のあり方にも問題があると考えた。紙面による説明や教育だけでなく、「間違った行動の先に潜む危険やリスクが何か」という安全の本質を教えることが重要と捉え、様々な作業について動画による教材を制作した。

⑦ 安全の本質を探究する取り組み

名工建設(株) 米原大規模事務所
米原大規模改修部 作業所長

佐藤 宏樹

11:40

今まで一方的だった教育を作業員個々に考えてもらうため、「何でだろうトレーニング」を実践している。これは現存するルールに対して、「どうして?どうなる?どうする?」と視点を動かすことでルールの理解を深め、安全の本質を探究していく取り組みである。安全に対する感受性が作業員間で高まっている。

12:00(12:00~13:00昼休み)

安全衛生教育分科会

講演

安全文化を高め、一人ひとりが安全に行動する職場をつくる

西坂労働安全コンサルタント事務所 代表
元 JFEメカニカル(株) 安全衛生部長、教育推進部長
西坂 明比古

13:00

ぶれることのない価値観に基づいた「安全文化創生活動」を通じて確立した安全文化基盤づくりと、“人が見ていない時でも安全に行動する人と職場づくり”について、その基本的な考え方を具体的な取り組み事例を交えて紹介する。

14:00

8 コミュニケーションの深掘りによる安全に強い職場づくり

(一社)日本自動車工業会
安全衛生部会 Aグループ研究会委員
(ダイハツ工業(株)管理センター 総務・安全・健康室 安全・健康グループ 主任)
榎藤 泰男

「危険情報は現場が持っている」。いかに現場から生の声を聞き出し災害が起きる前に手を打てるか?その手段としてコミュニケーションに着目し、職場における相関関係を概念図として整理し安全に強い職場づくりを目指した研究結果と、コミュニケーション活性化事例を発表する。

(14:20~14:30休憩) 14:30

9 EQマネジメント研修による自律型のいきいき職場づくり

マツダ(株)
安全健康防災推進部 健康推進センター
石田 恭子

当社は、自律型いきいき職場の実現に向けて、全員参加で安全健康活動に取り組んでいる。今回は、『職場の活性化に欠かせない人材＝管理者』に着目し開催した、EQマネジメント研修の実際と、当社が目指す感性の高い人づくりについて紹介する。

14:50

10 有機溶剤業務に関する安全衛生教育の取り組み

新明和工業(株)
航空機事業部 総務部 健康管理室
谷 彩奈

製造部門では多くの従業員が有機溶剤を取り扱うが、健康診断結果の所見が芳しくなく、現場巡視では防護用具着用が不完全な状況も見られた。そのため、作業者が有機溶剤の有害性を認識し、正しい知識習得のうえ従事する必要があると判断し、安全衛生の意識向上を目指し活動に取り組んだ。

15:10

11 中災防大阪安全衛生教育センター受講生による企業の垣根を超えた情熱集団の安全衛生教育

川重冷熱工業(株) 大阪本社
サービス技術部 課長
松田 成良

大阪教育センターで受講した各種インストラクター教育を基に、社内にて職長教育や特別教育等を実施しているが、教育センターで共に学んだ仲間と情報交換をすることにより、社内教育のレベルアップおよびインストラクター自身の資格取得等によるレベルアップを実現できたので紹介する。

15:30

12 機械設備カルテを利用した職場主体の法令遵守の徹底

(株)ニコン 本社
人事部 健康安全推進課
元山 いづみ

機械設備に関わる法令遵守の徹底には長年苦労してきた。表示や保護具、使用上の措置等に不備が散見されており、是正においても安全衛生の指示待ちだった。そこで、法令を網羅した機械設備カルテを機種ごとに作成し現場に展開することで、現場主体での法令遵守が可能になった。

(15:50~16:00休憩) 16:00

13 「守るルール」の取り組み～全員参加の課題と対応～

西日本旅客鉄道(株) 広島支社
広島保線区 施設管理係
水野 奈央

ルール破りをなくしたい。保線現場における指示命令系統の弊害を踏まえ、まずはチェック機能を強化するためのPDCAサイクルの構築を行い、正直な報告が肝要である事が分かった。これを得るためルールの理解やチェックの方法に着目し、現状把握と改善を図り、ルール破りの撲滅を目指す。

16:20

14 ニュー5Sで問題の真因に迫る。5つの「S」で考え、安全衛生活動を活性化!!

日本スピンドル製造(株)
総務部 安全衛生グループ グループリーダー
西野 高弘

安全衛生活動のマナー化という話をよく聞く。私たちも同様であったが、「ニュー5S」で問題の真因に迫り、問題解決への工夫を繰り返すことで「働きやすい職場」の実現に向けて歩み始めた。この新しい5つの「S」をきっかけに安全衛生活動の活性化を図る取り組みを紹介する。

16:40

安全衛生教育分科会

16:40

15 安全意識の向上に向けた全員参加の活動

三菱電機(株) 三田製作所
総務部 総務課

川上 充芳

労働災害発生を機に、危険だと分かっているにもかかわらず行動してしまう「安全意識と行動の不一致」撲滅に向けた、本質的安全活動の取り組みとして『「5S3定活動」を労働安全活動の基本』と位置づけ、従業員一人ひとりの安全意識の向上に向けて取り組んだ活動について紹介する。

17:00

11月10日(金) プログラム(9:00開場)

9:30

16 完全無災害 継続への挑戦!

新日鐵住金(株) 広畑製鐵所
生産技術部 研究・品質管理室

山下 亜希

職場の安全活動において「若手の発言が少ない」という課題があり、安全に対する意識改革を図ることとした。①安全教育の強化による自主性の向上と②危険感受性向上を図ることで、討議などで活発な発言が出るようになり、危険発掘活動も件数が倍増するなどの成果を得た。

9:50

17 急激に若返る職場の安全をどう守るか!!

(株)IHI相生工場
ボイラ製造Gr 課長

佐々木 拓也

職場の年齢層が若返るなかで技能伝承はできたか!安全教育を実施しているが成果が見えない!なぜだろう。若手が「危険とは何か」を見に付けていないのではないかと。そこで定点観察を実施し、現場での実態動画・写真を活用して危険源の見つけ出しができるように指導、教育を行っている。

10:10

18 若手教育を中心とした安全活動について

山陽特殊製鋼(株)
安全防災室 安全衛生グループ ライン担当

改發 高裕

当社では「不安全行動」が原因となる災害が多く、安全に強い人づくりを目指す必要があった。一例として、若手作業者を「安全推進員」として任命し、半年という長期間の教育制度を開始した。このような教育活動を足掛かりに「ボトムアップ型」風土醸成の構築を目指した活動を紹介する。

10:30

19 危険体感教育の効果と活動の展開

JXTGグループ危険体感教育センター
センター長補佐

桜井 良樹

JX金属は、従業員の危険感受性および安全意識の向上を図る教育として、2013年1月に危険体感教育を開始した。少人数受講および対話型教育を行い、より高い効果を狙う。現在は危険体感教育を活用した人材育成に関わる様々な教育を展開し、安全教育の総本山としての役割と機能を果たしている。

(10:50~11:00休憩) 11:00

20 動画や3DCGを活用した教育効果の向上に向けた取り組み

(株)九電工 本社
安全管理部 安全管理グループ 部長

佐藤 信二

より効果のある安全教育を行うため、市販の映像コンテンツだけでなく自社資源を活用し、自分達でドライブレコーダの画像やCG等をもとに教育資料を作成し教育に活用。教育資料の内容が自社で発生した事例を使用しているため受講者の関心も高く、実態に合った教育が可能となった。

11:20

21 安全に関する風土改革の取り組み (安全意識・スキル向上に向けたコンテストの開催等)

NTT東日本一南関東 神奈川事業部
設備部 エンジニアリング部門 エンジニアリング企画担当
岸本 文雄

各電気通信設備保守拠点代表者により、模擬設備での高所作業および安全作業に関する学科試験を行い合算得点を競うコンテストを実施。参加者・見学者が日々の作業を振り返るとともに組織全体の一体感の醸成、安全作業スキルの向上を図り、安全意識を向上させる施策である。

11:40

22 安全衛生リーダー育成のための安全衛生教育活動の取り組み

(株)日本ネットワークサポート佐野工場
副工場長(兼)総務グループ グループマネジャー

小泉 裕人

工場全体の安全衛生活動のさらなるスパイラルアップを図るため、各職場のグループから選出した8名の安全衛生リーダーによる自職場の安全衛生活動を実施している。平成28年度の活動として実施した安全衛生知識習得と安全衛生活動向上を目指した活動技術習得教育について報告する。

12:00(12:00~13:00昼休み)

安全衛生教育分科会

13:00

23 安衛法における特別教育の社内実施化とその教育内容の充実および全社への水平展開

(株)九電工 熊本支店
安全管理部 担当

杉田 和彦

ここ数年回転工具による災害が多発傾向にあった。直営社員だけでなく協力会社社員に対する特別教育の充実が肝要と考え、加えて教育の社内実施化を図るため講師の養成および工具等の手配に尽力した。成果は顕著となり熊本での関連災害は0となった。今後はノウハウを全社に水平展開していく。

13:20

24 新人多能工化教育によるリスク低減活動

新日鐵住金(株) 鋼管事業部 尼崎製造所
製造部 冷間小径管工場 製管・精整課

南 雅貴

当職場は機械安全設計を導入し、ハード面での安全対策は十分に実施されていたが、新人も多く入社し、行動面・意識面など、ソフト面に弱さを抱えていた。そこで、ハード面・ソフト面の両立した安全職場を目指し、KY力や安全感度に向上など新人の育成に焦点を当てた活動に取り組んだ。

13:40

25 基本に立ち返り「New5S活動」を用いた「ひとつづくり」へ挑戦!

(株)神戸製鋼所 神戸製鉄所
安全衛生室

福井 克也

決めたことを決めたとおりにする風土(文化)を形成するために、原点に立ち返り全所一丸となって「5S活動」を推進することを決意した。規律ある「ひとつづくり」を目指して、「5S」というツールを用い、試行錯誤しながら成長機会を提供し安全文化の定着を図っていく活動である。

(14:00~14:10休憩) 14:10

26 安全衛生活動に七転八倒! ~安全文化構築のために~

大塚化学(株) 徳島工場
生産本部 環境安全課

近藤 李菜

当社では、同様の労働災害が発生したことをきっかけに、2012年に、2度と同じ過ちを起こさないために安全道場を設立した。このことで様々な賞を受賞した後も労働災害が発生する現実があり、未だ安全活動が道半ばであることを痛感した。現在は活動を強化し安全文化の構築中である。

14:30

27 全員参加による安全意識向上への取り組み

赤穂化成(株)
総務部 グループ長

佐伯 英俊

過去の労働災害発生状況からコミュニケーションの重要性を再認識し、安全衛生委員会の組織の変更、リスクアセスメントの定着化、対象者別の安全教育などを計画的にすすめ、安全意識の向上とコミュニケーションの円滑化を図った。

14:50

28 安全衛生意識向上に向けた取り組み

三菱電機(株) 神戸製作所
総務部 安全衛生課

岡本 芳和

災害事故の根絶のためには、一人ひとりの安全意識向上と職場での安全活動の活性化が必要不可欠である。その実現に向け、マンネリ化のおそれのある安全衛生活動に毎年新たな取り組みを加えて、3か年計画で「相互に注意しあえる風土の醸成」に向けた取り組みを進めている。

15:10

29 「作業計画」精度向上の取り組み ~作業ダイヤの見える化~

西日本旅客鉄道(株) 広島支社
電気課 課長代理

橋本 健

数多くの工事を推進するなかでの課題は、いかに労災等のリスクを抑え込むかである。それには施工前の打ち合せが重要であり、不十分な打ち合せによる現場合わせの作業を撲滅する必要がある。本発表では工事関係者が共通の認識を持ち、計画策定を行うことによるリスク低減の取り組みを紹介する。

15:30

ゼロ災運動分科会

会場 神戸国際会議場 メインホール (神戸市中央区港島中町6-9-1)

11月9日(木) プログラム(9:00開場)

1 グループではじめて関東圏外に設立し 取り組んだ、我が工場の安全衛生活動 10年の歩み ボラスグループ ボラテック西日本(株) 滋賀工場(ロハスフィールド) 工場長 櫻井 一人	9:30 10年前にボラスグループとして初めて関東圏外に展開した。その後ボラテック(株)の関連会社として滋賀県にボラテック西日本(株)の工場として設立し、現在に至るまで全従業員一丸となって安全衛生活動に取り組み、生産の拡大とともに安全最優先の事業を確立した。
2 大鉄KYで労災防止 ～一人ひとりの一生無災害を目指して～ 大鉄工業(株) 北陸支店 安全推進部 主任 飯田 浩志	9:50 作業グループ単位の「ワンポイントKY」では、グループ共通のリスク回避策を設定するも、作業員ごとに役割が異なり、多くの作業員は当日の「指差呼称項目」と異なる作業に従事している。そこで、作業員個々が自らの役割からリスクを探して対策を現場で実行する「大鉄KY」を紹介する。
3 切創災害から学ぶ災害ゼロへの挑戦! 安全意識改革によるKY活動 日産自動車九州(株) 製造部 第二組立課 山本 裕己	10:10 皆が安心して働ける職場環境づくりを目指して安全活動を推進してきたが、切創災害が発生してしまった。今までの活動を振り返り、先取りの活動の必要性を学び危険に対する感受性を高める事ができた。
(10:30～10:40休憩) 10:40	
4 KY能力の向上に向けた取り組み (株)神鋼環境ソリューション 播磨製作所 製造室 班長 溝口 真二	発生した事故・災害を分析するとKY内容が不十分で指差呼称も単にやる・やれば良いとの意識レベルであることが明確になった。危険に対する感受性を高めるKY能力向上を図り、指差呼称での確実な確認につながるKY強化の取り組みを紹介する。
5 工場内のKY指導、やってみて わかったことと困っていること 四国化成工業(株) 丸亀工場 安全・環境管理室 藤田 芳伸	11:00 2012年、新設の安全管理室の業務の一つとして「KYの現場指導」を始めた。各職場ではすでにKYをしていたが、その趣旨を満たす水準には程遠かった。中災防のセミナーを指導に反映し、今では及第レベルは超えたとみているが、その過程でわかったこと、今も困っていることを紹介する。
6 ゼロ災運動を凡事徹底の心で進める (株)東研サーモテック 播磨工場 製造課 課長 桑田 智博	11:20 金属熱処理会社の工場長のゼロ災運動への取り組み報告。全社員にゼロ災研修を2回ずつ実施し、管理職9名に中災防KYTTレーナー研修を受講させリーダーとした。ゼロ災研修、朝礼改革、指差し呼称、KYTの現場実践、3S活動などを凡事徹底の心で進めた。KYTの演練も紹介する。
11:40	

ゼロ災運動分科会

事例報告

近年における近畿マルコ会(近畿KYTコーディネーター会)の活動について

近畿マルコ会 会長
事務局

小田 喜章
竹内 千里

11:40

中災防近畿安全衛生サービスセンター主催の「KYTトレーナー研修会」のコーディネーターを中心に活動している近畿マルコ会の活動状況、および全国初の女性公認KYTインストラクターとして活動している立場から捉えたゼロ災運動について報告する。

(12:10~13:00昼休み) 13:00

運動展望

「ゼロ災運動」で人を育て明るい職場をつくる

中央労働災害防止協会
教育推進部 ゼロ災推進センター 所長

鈴木 博仁

職場の人間関係や職場の風土は、労働災害と深いつながりがある。ここにゼロ災運動がどのようにアプローチしていくのか、展望と方向を紹介する。

13:30

7 列車見張員のゼロ災運動

(株)レールセキュリティ

小川 凌平

列車見張会社のゼロ災運動の活動を、現場見張員の立場で紹介する。年3回の1日研修で見張り実技やKYTの基本訓練を繰り返す。毎月1回は全社員参加の会議で、目標管理やHHKと警備員指導教育などを行う。ゼロ災チームミーティング、STK演練、問いかけKYTの実技演練を紹介する。

13:50

8 プロの指導から独立し、自律したKYT活動への新たな取り組み

富士臨海(株)
業務部業務課 課長代理

吉田 友顕

平成22年度から中災防公認KYTインストラクターを導入した。約4年にわたる教育で、KYの知識・能力を身に付け成長したKYTトレーナーがインストラクターから独立し、自らが中心となって展開実践している。マンネリ・形骸化させない、変化のあるKYT活動を紹介する。

(14:10~14:20休憩) 14:20

9 台風10号による岩手・岩泉町通信網大規模被害の迅速復旧を支える、TBM-KYと指差し呼称の実践

(株)TTK 岩手支店
副支店長 兼 安全品質管理部長

白井 一平

H28年8月、岩手県岩泉町を中心に大きな被害の出た台風10号による大規模な通信網遮断での集落孤立状態に対し、TTK岩手支店が協力会社とともに、「自分の命は自分で守る 仲間の命はみんなで守る」というスローガンのもと、安全施工サイクルの確実な実践で全店一丸となり不眠不休の復旧作業に取り組んだ活動を報告する。

14:40

特別報告

非定常作業を安全に進めるためのKY活動

中央労働災害防止協会
教育推進部 ゼロ災推進センター

非定常作業の労働災害防止は、喫緊の課題ともいえる。それに対応するには、作業前のKY活動の実践が必須である。正しい作業指示書の作成と指示のあり方を中心に紹介する。

(15:10~15:20休憩) 15:20

表彰式

ゼロ災運動表彰式

15:40 (15:40~15:50休憩)

ゼロ災運動分科会

15:50

講演

目標達成のためのセルフマネジメント

北京五輪メダリスト
大阪ガス(株) 近畿圏部マネジャー

朝原 宣治

塚原、末續、高平と組んだ北京五輪リレーチームが銅メダルを獲得した最大の要因は、相互に宿命のライバルながら敬意を持ち合わせた深い信頼関係にあった。競技経験の中には、結果を求め続けた過程で得られた独自の考え方や閃きがあった。

17:00



中災防 定期刊行物のご案内

毎月お届けする **便利でお得な「年間予約購読」** をぜひご利用ください!

安全衛生は企業力の源!!

経営者、安全衛生・産業保健スタッフ、
人事・労務部門 必読の一冊!

月刊誌「安全と健康」



- ◎毎月1日発行 / B5判・104頁
- ◎年間予約購読料11,112円
(税込・送料サービス)
- ◎1部定価926円
(本体858円・送料別)

【主な特集(一例)】

- これからの安全衛生教育
- 今こそ取り組む「健康経営」
- KY活動の新たな展開を目指して
- 非正常作業を安全に
- ストレスチェック 次の一步

働くあなたのそばに

安全・安心な職場づくりを目指す中小企業
経営者、監督者・作業者のための

月刊誌「安全衛生のひろば」



- ◎毎月1日発行 / B5判・64頁
- ◎年間予約購読料6,540円
(税込・送料サービス)
- ※2口以上の場合は、1口あたり
6,000円
(税込・送料サービス)
- ◎1部定価545円
(本体505円・送料別)

【主な特集(一例)】

- 転倒災害を防げ!
- 雪・凍結にご用心
- 見逃すなボヤ! 未然に防ぐ火災
- 知ってる? 職場の感染症対策
- 膝の動き スムーズに

●年間予約購読料は1年単位の前払い制となります。途中解約による返金はできません。●お申込みいただき次第、商品とは別に請求書と専用の郵便振替用紙をお送りいたします。●年間予約購読のお申込み・お問合せは、中災防 出版事業部 業務管理課 FAX: 03-3452-2480 TEL: 03-3452-6702 またはお近くの労働基準(労務安全衛生)協会(連合会)まで。●バックナンバーのお申込み、または見本をご希望の方は、中災防 出版事業部 業務管理課までご連絡ください。●一部売りなど(年間予約購読以外)のご購入の場合、送料は別途規定の料金をいただきます。※年間予約購読料は平成29年4月1日現在の料金です。

交通安全分科会

会場 神戸商工会議所 神商ホール (神戸市中央区港島中町6-1)

11月9日(木) プログラム(9:00開場)

① 高速道路における交通規制実施時の安全管理について

(有)新成警備保障
専務取締役

梶岡 繁樹

9:30

高速道路に規制実施時に受傷事故が発生すると即、重大災害となる。能力の向上を図るため、日々の警備員教育を充実させるとともに現場においては、規制実施前の安全ミーティングを常に行っている。また、設備面として最新の道路標識車や保安資器材を導入し事故防止の絶無を期することとした。

② 車両事故削減に向けての全社的取り組み

ネスレ日本(株)
エンプロイパートナーズ部 ユニットマネージャー

浦本 美裕

9:50

工場以外で働く従業員にとって最も危険なのは営業車を運転する時である。弊社では車両事故削減の取り組みとして、役員を巻き込んだ重要目標とすること、ワークショップを開催し、そこから発案されたコンテスト等の対策を行うことにより、前年比40%削減することができた。

③ 企業ドライバーの研修結果から見る事故防止ポイントと運転研修の取り組みについて

大阪ガスオートサービス(株) 企画管理本部
SAFE推進部 安心運転訓練センター チーフ

佐藤 大輔

10:10

交通事故は今や待ったなしの企業危機である。弊社では企業ドライバーを対象に自らの運転に気づき、納得することができる「OGASビデオ診断システム」による研修を行っている。今回は運転研修の結果から、企業ドライバーの事故防止ポイントと事故削減効果のあった事例を紹介する。

④ コニカミノルタ東海地区「15年度通勤災害0件」を達成したヒヤリハット活動

コニカミノルタ 瑞穂サイト
総務部 サイトサポートグループ 東海エリアグループ

村上 賢司

10:30

コニカミノルタ東海地区で通勤災害が13年度7件⇒14年度10件と増加したため、車利用者全従業員を対象に実施した「ヒヤリハット活動」、更にそのデータを元に作成した「ヒヤリハットマップ」を用いた啓蒙活動等、「15年度通勤災害0件」を達成した一連の取り組みを発表する。

(10:50~11:00休憩) 11:00

⑤ 安全運転の効果的教育方法の検討

総合警備保障(株)
警送サービス部 部長

川越 貴幸

悲惨な交通事故が全国的に発生を続けるなか、従来のままの教育方法に限界を感じ、ドライバーの心に響く教育方法を模索した。受講者へのアンケートや感想を踏まえ、ドライブレコーダーの動画を活用した方法を導入。動画の確認作業に苦勞したが、事故件数減少の効も得られた。

⑥ 全社員が毎月実施の危険予知トレーニング5年間の実績について ~安全は継続なり~

NTT東日本-南関東 千葉事業部 茨城支店
企画総務部 労務安全担当

綿引 すず子

11:20

ドライブドクターを導入しただけでは事故は減らない。いかにドライブドクターを活用し、安全意識の向上につなげるか。我が茨城支店における、ドライブドクターの実映像を活用し、現在も継続して毎月全社員821名が実施している危険予知トレーニングの5年間の実績を紹介したい。

⑦ 運転手と連携したリスクアセスメント活動による構内走路の改善

グリーンフィル小坂(株)
建設工事管理課 グループリーダー

田崎 健祐

11:40

秋田県北部に位置する最終処分場において、搬入路の付替工事を実施した。搬入車両の増加、走行環境の変化により重大災害が懸念されたが、走路使用者である運転手と連携したリスクアセスメント活動を展開することで、冬季においても安全で円滑な操業環境が構築できた。

12:00

防災・危機管理分科会

会場 神戸商工会議所 神商ホール（神戸市中央区港島中町6-1）

11月9日(木) プログラム(13:00開始)

① 津波対応訓練の効果向上を目指して

東日本旅客鉄道(株)
東京支社 総務部 安全企画室 主席

富澤 賢太郎

13:00

津波対応訓練を実施するにあたり、どのようにすれば訓練の効果を向上させることができるかについて思考した。訓練参加者に「この訓練はなぜ必要なのか」を理解させるための工夫が必要であると感じ、取り組んだ。

② 災害時における列車からの避難訓練開催への歩み

九州旅客鉄道(株) 鉄道事業本部
安全創造部

浦田 啓太

13:20

列車乗車時に地震および津波警報が発令された場合、避難や救護に先立ち、災害時に何が必要かを学ぶため防災士の資格を取得した。社員だけの訓練から、防災意識の向上を図るため一般の方にも参加を呼びかけ、地域と一体となって地震・津波避難誘導訓練を開催するとともに、地域を広げ取り組んでいる。

③ 危機管理と人材育成における継続的改善の重要性について

近畿警備保障(株)
代表取締役社長

松尾 浩三

13:40

東日本大震災以降の危機意識が薄れかけていた今年、熊本地震が発生した。いままでの防災教育では不十分であることを痛感し、よりリアルな防災計画(教育)が必要であると考え、“図上演習”を取り入れた。時間の経過に伴う状況変化に対応する計画を考えることで人材育成にもつながる教育となる。

④ 大学等教育研究機関における、多品種化学物質同時漏えい災害の復旧手順標準化

国立大学法人 九州工業大学
安全衛生推進室 安全衛生管理部門主幹

中村 修

14:00

多くの大学等教育研究機関には、数百種類の試薬を保管する薬品庫や薬品棚が存在する。このような薬品庫等が強い揺れに遭うと、多くの種類の薬品が一度に漏えいする場合がある。このような薬品漏えいに対する事後対応を経験に基づき検討し、現場用啓発ポスターと手順書にまとめた。

(14:20~14:30休憩) 14:30

⑤ 大地震発生時におけるJR西日本社員としての考動

西日本旅客鉄道(株) 近畿統括本部
神戸保線区 施設管理係

阿部 成紀

東南海地震により津波の襲来が予想される区間において、お客様を安全に避難誘導するためにシミュレーションを行った。当該区間は北はフェンス、南は海に囲まれ線路外に脱出する経路が限られていた。そのため門扉の拡幅や新設を行い速やかに脱出できるようリスクの低減を図った。

⑥ 熊本地震における復旧作業時の労働安全対策

九州旅客鉄道(株) 熊本総合車両所
品質管理課 車両技術主任

佐潟 清美

14:50

熊本地震で脱線した新幹線車両を載線搬送する作業を、余震が継続するなかで行った。作業者の安全を確保するため、車両の転倒を防ぐ転倒防止フレームの設置や、夜間における避難経路照明の設置など、地震災害時特有のリスクに対する対策を行い、無災害で作業を完遂した。

講演 今後想定される首都直下地震、南海トラフ巨大地震などから災害大国・日本が生き残るために

関西大学
社会安全研究センター長 特別任命教授

河田 恵昭

15:10

首都直下地震や南海トラフ巨大地震、東京水没が起こると、あまりの被害の大きさのために、それがきっかけとなって我が国は衰亡の危機となり得る。これらの国難災害を乗り越えるために必要な事項について考察する。

16:10

第三次産業分科会

会場 神戸国際展示場 2号館 2階2A会議室 (神戸市中央区港島中町6-11-1)

11月9日(木) プログラム(9:00開場)

		9:30
腰痛予防対策セッション	腰痛予防対策セッション 座長 中央労働災害防止協会 大阪安全衛生教育センター 所長 松下 高志	本セッションでは社会福祉施設、小売業等を対象とした「働く人に安全で安心な店舗・施設づくり推進運動」の一環として、社会保健施設における腰痛予防対策として現在取り組まれている「ノーリフトケア」についての概要、その効果、現場での取り組み状況について解説・報告を行う。
	特別報告 保健衛生業における腰痛予防対策～現状と課題～ 滋賀医科大学 社会医学講座・衛生学部門 講師 北原 照代	介護・看護のニーズがますます増大するわが国において、保健衛生業における腰痛予防対策は喫緊の課題である。改訂腰痛予防対策指針で示された内容を、介護・看護現場でいかに実践するかが問われている。
	事例1 特別養護老人ホームにおける介護職員の腰痛予防対策実践報告とストレス対策について 社会福祉法人市原寮グループ 介護老人福祉施設 花友しらかわ 理学療法士 安全衛生委員 松本 哲郎	特養ホームでノーリフトポリシーを参考にした移乗介助環境整備での、成果(利用者のADL向上)と課題(人員配置基準によるリフト2人操作困難)、また福祉機器(見守りシステムベッド・車椅子自動ブレーキシステム)により職員ストレスを軽減させた事例を報告する。
	事例2 目からウロコ! 腰痛予防の取り組みが介・看護技術向上に役立ってホント? 社会福祉法人帝塚山福祉会 介護老人保健施設 聖和苑 介護係長 寺前 光啓	利用者の中には、関節拘縮や全身の筋緊張が高い方もいて、介・看護職員は持ち上げたり、悪い姿勢での介助が長時間におよび腰痛症の原因となっているが、仕方ないとあきらめている職員も多い。ノーリフトケア導入後、利用者の拘縮は減り笑顔が増えるという経験をしたので報告する。
	事例3 ノーリフトポリシーによる労働環境の改善と現場への浸透について 社会福祉法人 伸こう福祉会 特別養護老人ホーム クロスハート幸・川崎 フロアリーダー 遠藤 大輔	介護スタッフの高齢化が進み、現場では腰痛による、移乗介護ができない高齢職員が増加している。個人の力量に頼らない、高齢職員でもできる介護が必要となり、2016年から日本ノーリフト協会の研修を開始した。施設に浸透を図るため、第一ステップとして、ノーリフトポリシーを教えることができるトレーナーを10名育成した。第二ステップとして、トレーナーが各施設のスタッフに対して教育を行った。
	特別報告 日本におけるノーリフトケアの取り組みと今後 (一社) 日本ノーリフト協会 代表理事 保田 淳子	1998年より豪州にて医療や介護の腰痛予防対策として取り組まれたノーリフティングポリシーは、腰痛を軽減しただけでなく、ケアを受ける側、経営者や政府にとっても利益をもたらしたといわれている。日本でも取り組みを開始し、ノーリフトケアコーディネーターが各地で活動を始めた結果、職場の文化が変わってきた。また今後は、海外とも連携して取り組みを進めていく予定である。
(12:20～13:00休憩) 13:00		
特別報告	介護支援機器への期待と安全課題 (独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 機械システム安全研究グループ 主任研究員 岡部 康平	介護職場における腰痛予防、さらには、労働力不足の解消として、介護ロボットや装着型作業支援機器などの新規技術を用いた介護福祉機器の導入が期待されている。ロボット介護機器等の開発動向などを踏まえて、介護支援機器への期待と安全面の課題について紹介する。
	1 介護施設におけるスタッフの腰痛予防について (株)ニチイ学館 神戸支店 ニチイケアセンター神戸摩耶 施設長 藤沢 さとみ	13:30 介護施設で働くスタッフにとって、腰痛は悩みの種である。自己管理を怠ると腰痛になり、就業さえもできなくなる。長く介護職を続けるにあたり、普段からの自己管理や事業所としてスタッフのケアが必要となる。当施設でも腰痛による退職を防ぐため、職場環境の改善や業務の効率化を図っている。
		13:50

第三次産業分科会

2 腰痛ゼロへの挑戦 ～腰痛予防対策に取り組んで～

社会福祉法人 天神会
天神介護老人保健施設 介護課長

原 真紀子

13:50

福祉施設で働く私たちにとって、腰痛予防対策は大きな課題である。職員の健康を守るため、法人全体で改善に取り組み、コンサルティングDr.指導の下、改善活動を行った。手作りボードやスライディングシートを活用し、抱える介護から滑らす介護へと改善し、周知徹底する仕組みを構築した。

3 中高年齢者が卓越する職場における 安全対策等の取り組みについて

首都高トールサービス神奈川(株) 本社
業務・安全部 係長

高橋 賢太郎

14:10

首都高速道路の料金収受業務を受託する当社では高齢者が多い。ETCレーン監視業務は大きなウェートを占め、かつ事故リスクが高い。当該業務を遂行する上で、高齢者等の身体的・能力的低下の特徴を踏まえ実施している安全教育の内容および快適な職場整備を目指した活動を紹介する。

4 ビル総合管理における「安全文化」確立 の重要性

日本管財(株)
管理統括本部 顧問

前田 充康

14:30

ビル総合管理では、設備管理、清掃業務、警備業務はじめ施設の改築修繕工事など様々な仕事がある。自社内の安全対策のみならず、協力会社との重層的な安全対策もある。ビル総合管理の安全対策で最も重要な点は何か。人こそ財産の企業の立場から「安全文化」確立の重要性を考える。

(14:50～15:00休憩) 15:00

5 第三者行為ゼロに向けて「距離と心にゆとり を持とう!それが安全・安心へのルーティーン」

東京急行電鉄(株) 鉄道事業本部 運輸営業部
渋谷駅 駅務係

吉住 涼子

駅係員への暴力行為が社会問題であり、第三者行為ゼロに向けて、リスクアセスメントを実施することとした。まず、アンケートを実施し、対策の樹立と意識高揚のためスローガンを掲げた。現在、対応する距離や応援体制の改善を中心に取り組み、今後も再度リスクを洗い出し、リスクの低減を図る。

6 熱中症予防大作戦

(株)キシステム
警備事業本部

高木 雄太

15:20

デスク社員に①熱中症の症状や正しい対応方法などの講習を受けさせた。②講習で身に付けた内容を現場巡回や研修で周知させた。③1,000名の所属警備員へ熱中症対策グッズを配布させた。この三つの取り組みが、熱中症予防だけでなく現場警備員とデスク社員との連帯感向上にもつながった。

7 コープこうべの労働災害撲滅の取り組み ～転倒転落災害対策が組織全体に浸透した理由～

生活協同組合コープこうべ
健康管理室

植田 拓浩

15:40

9,000人以上の職員が働くコープこうべで発生する労働災害の半数近くは転倒転落災害であり、職員の高齢化に伴う大きな課題である。2016年度の転倒転落災害撲滅の取り組みについて、組織が一体となり推進することができた理由や、実際の効果的な取り組み例を報告する。

16:00

第三次産業における5Sの実践による労働災害の防止 ～ホスピタリティ・マインド(おもてなし)をこころに刻んで～

青森中央学院大学大学院 客員教授
(有)グローバル・マネジメント社 代表取締役

小澤 信夫

第三次産業・流通産業界におけるマネジメントに関して豊富な経験をもち、CS(カスタマー・サティスファクション=顧客満足)、ホスピタリティ論の専門家である講師が、労働災害の防止にもつながる5S(整理・整頓・清潔・清掃・しつけ)の実践について語る。

17:00

中小事業場分科会

会場 神戸国際展示場 2号館 2階2A会議室 (神戸市中央区港島中町6-11-1)

11月10日(金) プログラム(9:00開場)

1 楽・正・早・安・思想の安全取り組み

アスカカンパニー(株) 本社工場
取締役工場長

小林 孝洋

9:30

我が社は楽・正・早・安を基本理念としたQC活動を38年間継続し、安全衛生活動に取り組んでいる。自社製の製品切断機や作業者・管理者のストレスを軽減するカメラシステム・不良分析ソフト開発・測定検査器の開発など、それぞれが自ら率先し問題解決に取り組んでいる。

2 安全衛生の基本=5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)で快適な職場環境の整備を推進

千住金属工業(株) 関西事業所
生産課 生産担当 担当長

松本 博之

9:50

当社の安全衛生の取り組みは、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を基本とし、安全衛生委員会で職場バトロールを実施している。この活動と各職場のリスクアセスメント活動やヒヤリハット収集、改善活動を軸に、快適な職場環境の整備を推進しており、これらの活動について発表する。

3 「基本を見直した」ゼロ災企業への取り組み

音羽電機工業(株) 神戸工場
総務センター 安全衛生管理室 室長

吉井 三喜夫

10:10

休業を含む労災多発の事業場であったことから労働局より「特別指導事業場」の指定となった。事態を重く受け止め安全の専門部署を設け、過去の災害事例から要因を分析、危険感知力、安全意識向上を柱にゼロ災企業への取り組みをトップ安全宣言の下スタートした。無災害表彰受賞までを紹介する。

4 女性がつくる危険予知と安全管理

有楽製菓(株) 札幌工場
製造課 主任

佐藤 亜利紗

10:30

女性は一般的に設備の保全や仕組みに弱いと言われ、その延長にある危険予知や安全管理活動も男性中心の傾向にあった。ただ、男性だけの目線だけでは全てが上手く運用できない。女性ならではの「気づき」「気づい」により、社内の安全活動が活発になり現実的な成果を上げる事例。

(10:50~11:00休憩) 11:00

5 胆管がん問題発端会社が、従業員と共に安全・安心な職場作りで一番大切な事を学ぶ

(株)SANYO-CYP
代表取締役社長

山村 健司

弊社において、胆管がん問題が発生したことを重く受け止め、多くの方々の支援を受けながら、安全・安心な職場づくりに全社を挙げて精一杯取り組んできた。今までの取り組みを通じて、労働衛生管理活動を根幹で支える最も大切な事を学んだ。

事例報告 QCサークルを通じた安全衛生活動の展開

ハマプロト(株)
業務部 管理グループ

河合 昌伯

11:20

当社は、創業15年の会社で、安全に対する取り組みを手探りの状態からスタートした。QCサークル活動の展開のなかから「中小企業無災害記録証」取得を目的とし、安全意識の高揚を図ってきた。その結果第4種を達成し、さらに現在は第5種受賞を目指し地道な安全活動を積み重ねている。

6 安全衛生管理からみた始業点検等の実施方法、記録の方法等に関する提言

ミドリ安全(株)
安全衛生相談室

石井 良和

11:50

ミドリ安全(株)では、顧客サービスの一環として労働安全衛生コンサルタント等による職場診断およびアドバイスを実施している。本報告では労働衛生コンサルタントが過去18年にわたり実施してきた、のべ285事業場のアドバイス内容から、始業点検等に関する項目を抜き出し報告をする。

12:10(12:10~13:00昼休み)

中小事業場分科会

7 無災害記録「金賞」へのチャレンジ!!

細見鉄工(株)
生産管理部 部長

田中 秀明

13:00

労働基準協会主催の安全衛生勉強会参加をきっかけに、安全衛生委員会をスタート。10年無災害を継続し、無災害記録賞の銅賞受賞。次の目標を銀賞、金賞と決めて改善を図り、TMP活動、3S活動等に取り組み銀賞、金賞を受賞。現在20年無災害を目指し邁進中。安全を柱にした取り組みで生産性も向上してきた。

8 工作機械組立場における安全作業活動の推進

大豊機工(株)
工作機部 部長

岡田 和也

13:20

工作機械の組立現場では脚立を使用して作業を行うことがある。場合により、狭い作業スペースで高所作業を行うことがある。このような作業環境において、作業効率を落とさずに安全を確保する方法を、使用する用具や作業内容について検討を行った。

9 GSC登録へ向けた安全衛生管理体制の確立および協力企業と相互連携した災害防止活動

玉川エンジニアリング(株) 本社
管理本部 管理部 管理課 主査

吉津 実

13:40

OSHMSのような定期的にPDCAサイクルを回す仕組みが無かったことから、まずGSCへの登録を目指し、規程の整備やRAを中心に活動を行い登録予定へ至った。また労災罹災者の4割が協力企業という背景があり、自作教育資料を作成し都度教育を行い徹底した災害防止活動を推進した。

10 当社の全員参画安全活動

福島プラスチック(株)
総務課 係長代理

作田 千秋

(14:00~14:10休憩) 14:10

2011年以降、大きな労働災害が続き、本質的な安全活動や安全対策が不可欠となった。当社では、人間尊重を大原則に、「5S活動を基軸とした不安全行動の低減」と「リスクアセスメントを基軸とした不安全状態の改善」を両輪とし、技術立社に向けた全員参画活動を展開中である。

11 プレート焼鈍炉台車車輪交換時の安全確保

(株)エーメス
工事部 第一工事課

寺島 信宏

14:30

お客様である神鋼真岡製造所の安全方針で「やりにくい作業の抽出と改善」が展開され、私たちの職場で抽出されたプレート焼鈍炉台車車輪交換作業で特にリスクの高い項目の作業改善と治工具の考案により、リスク低減を達成できた。安全性向上とともに作業能率向上にも反映できた。

12 経営理念に基づいた新入社員教育～理念の伝承と10年後の自分～

(株)東京軀体
代表取締役

渡沼 健一

14:50

10年後の会社はどんな会社になっているのか?そのとき活躍しているのは新入社員だ!その思いから新入社員教育を自社で行うことにした。外部にたくさん素晴らしい教育機関があるが、社長・幹部・社員の話から経営理念を知る。そして社会人としての心構えと自分に気づく2ヶ月間。

13 (株)日本海水赤穂工場における労災ゼロへの取り組み

(株)日本海水赤穂工場
設備・安全グループ長

麦踏 尚男

15:10

毎年発生していた当工場の労働災害は2014年以降ゼロ件となった。これはここ数年間における社員の安全に対する意識の高揚とリスクアセスメント活動の浸透によるところが大きいと考えている。についてはここ数年間の取り組みとして実施してきた安全活動について報告する。

15:30

中小事業場分科会 会場ロビーにて
「職場の安全と健康 無料相談会」開催!

労働衛生管理活動分科会

会場 神戸国際会議場 国際会議室（神戸市中央区港島中町6-9-1）

11月9日(木) プログラム(9:00開場)

① 有機溶剤使用職場における作業環境測定と個人ばく露濃度測定と比較

JFEスチール(株) 西日本製鉄所（倉敷地区）
安全衛生室

安松 絵梨

9:30

一定の有害物を取り扱う作業者の健康の保持増進のための措置として、作業環境測定を行っている。作業環境測定は、場の測定を行うため、実際の作業者のばく露濃度を反映しているとはいえない。作業環境測定が行われている作業場で個人ばく露濃度測定を実施し、比較検討を行った。

② 電動ファン付呼吸用保護具着用による負荷の軽減の調査研究

岡山産業保健総合支援センター
産業保健相談員

横溝 浩

9:50

電動ファン付呼吸保護具が、労働安全衛生法の改正により平成26年6月1日から型式検定の対象となり、その使用の効果が期待されている。今回の調査研究ではメーカー2社に協力を願い、身体的負荷を測定して従来の防じんマスクとの着用時における違いを客観的に評価した。

③ ゴーグルの曇りを防止！視界を確保し安全作業！

大阪富士工業(株) 知多支店
生産工程部 小シ管課 作業長

小島 剛

10:10

パイプの研磨作業で使用するゴーグルは、曇ると手元が見えなくなり、危険な上に作業能率が低下する。多くの防曇ゴーグルや防曇剤が販売されているが、防曇維持期間が短く不満があった。今回、曇りのメカニズムを勉強し、半永久的に防曇効果を維持するゴーグルを作成した。

④ 騒音職場における個人ばく露測定の研究

東日本旅客鉄道(株) 郡山総合車両センター
総務科 安全グループ 助役

横山 清人

10:30

当センターでは騒音職場があり、騒音の発生原因は部品洗浄後の気吹き作業と気道車に使用しているディーゼルエンジンの回転音である。それらが作業者に及ぼす影響について、作業エリアの作業環境測定ではなく作業者個人の騒音測定を実施して騒音のばく露状況を確認することにした。

(10:50~11:00休憩) 11:00

⑤ 駐輪場における熱中症予防対策

(株)東急レールウェイサービス
業務部 駐輪場運営課 日吉エリア マネージャー

寶勝 保則

駐輪場は屋外で自転車の整理整頓作業が多い。夏場は炎天下での作業による熱中症リスクが高い。OS-1や塩あめ配布等取り組みに加え、今般、ミストシャワーを導入し効果的に外気温を下げることで熱中症予防および作業環境の改善を図った。

⑥ 第4製鋼工場 炉修作業の安全化

JFEスチール(株) 東日本製鉄所（千葉地区）
設備部 製鋼設備室 リーダー

一瀬 浩平

11:20

工場内における熱中症リスク軽減対策を行った。これを機に暗所部の撲滅や清掃強化も行い作業時の安全性向上を図った。これまであきらめていた問題であったが、皆で様々なアイデアを出し合うとともに現状を訴えることにより上司や関係部署の協力が得られ打開策を打つことができた。

労働者のメタボリックシンドローム対策 時間効率を重視した介入プログラムの提案

(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
産業疫学研究グループ 研究員

松尾 知明

11:40

「労働者が長い時間を過ごす職場を健康増進の拠点にできないか?」「デスクワークが多く体力レベルの低い労働者の心機能を効率よく改善させられないか?」そのような視点から取り組んでいるメタボリックシンドローム該当者などを対象とした研究のこれまでの成果を紹介する。

特別報告

12:10(12:10~13:00昼休み)

労働衛生管理活動分科会

13:00

過重労働による健康影響

産業医科大学
特命講師

黒崎 靖嘉

過重労働がどのような形で健康に影響を与えているかは、衛生担当者や人事担当者にはあまり認知されていないのが現状である。本講演では、過重労働対策を行う上で衛生管理者や人事担当者が知っておくべき過重労働の健康影響について解説する。

産業医学的視点に基づいた過重労働対策

産業医科大学
特命講師

田口 要人

各企業では時間外労働の削減や業務の見直しなど過重労働対策を行っているが、手探りの状況で進めている企業も少なくない。本講演では、産業医学的視点に基づいた過重労働対策について、最新の知見と共に事例を踏まえながら解説する。

(14:30~14:40休憩) 14:40

「ノーマライゼーション」の理念に基づいた、安全でイキイキと働ける職場づくり

サンアクアTOTO(株)
総務課 主査

古賀 光司

TOTOグループの重度障がい者多数雇用企業として、安全への取り組みや、障がい者が健常者と同じように業務を行うための改善を推進している。障がいのある人もない人も一般社会で平等に生活できる～ノーマライゼーション～の実現に向けた職場づくりを目指した活動を報告する。

15:10

7 転倒、腰痛労働災害防止に向けた取り組みについて

味の素(株) 川崎事業所
総務・エリア管理部

原 宏貴

労働者の高齢化および筋骨系労働災害の増加をきっかけに、中央労働災害防止協会と連携し、独自の転倒予防取り組みを導入。また、日本予防医学協会と連携し、作業姿勢分析法を導入。転倒予防の取り組みによる運動機能維持の検証結果と、作業姿勢改善による効果検証について報告を行う。

15:30

8 健診時の酸性尿(pH値)告知と保健指導の介入による健康意識および生活習慣の改善効果

東日本旅客鉄道(株)
高崎鉄道健診センター 主任看護師

遠藤 弥生

健康番組を見た社員の「尿の酸性度を知りたい」との要望をきっかけに、健診で尿pH値を専用パンフレットへ記載し、問診で個別の保健指導を実施した。その結果、社員の尿酸性度の知識と健康への関心が有意に高まり、水分・果物摂取が有意に増え、行動変容につながったので報告する。

(15:50~16:00休憩) 16:00

9 新たな胃がん検診の導入と評価について

神戸製鋼所健康保険組合
事務長

小北 紕砂夫

胃がんの早期発見を目的に、胃がんリスク検診と胃内視鏡検査を組み合わせた効率的効果的な新たな胃がん検査を確立し、2010年度から導入した。導入後6年間に胃がん70件、食道がん15件を含む90件のがんを発見し、胃がんにかかる医療費と消化器系(胃潰瘍等)の医療費を削減した。

16:20

10 社員に対する効果的な健康支援の取り組みについて～データヘルス計画実施に向けて～

東日本旅客鉄道(株) JR東日本健康推進センター
保健看護室 看護師

望月 裕理

当社では、データヘルス計画実施に向けて、健保と協力・連携し、コーポヘルスである重症化予防を展開している。その一環として、効果的な保健指導を実施するため、健診データを活用した社員の健康状態の把握、職場との連携を重視した体制づくりについて検討したので報告する。

16:40

全国衛生管理者協議会 活動報告

HOYA(株)
HOYAグループOSH推進室 環境・安全衛生統括マネージャー
(全国衛生管理者協議会 事業検討委員会 委員長)

神津 進

平成27年度・28年度 全国衛生管理者協議会の援助事業について、活用した24会員の実施状況を報告する。

17:10

特別報告(過重労働対策)

特別報告

特別報告

労働衛生管理

化学物質管理活動分科会

会場 神戸国際会議場 メインホール (神戸市中央区港島中町6-9-1)

11月10日(金) プログラム(9:00開場)

1 分析作業におけるベリリウムリスク低減

日清鋼業(株)
技術総括部 品質保証グループ 分析班

新井 拓巳

9:30

日清鋼業(株)技術総括部では、化学分析事業を行っている。化学物質のリスクアセスメントを実施し、リスク低減活動を進めているが、ベリリウムのリスクレベルが高いことが課題だった。日々の業務改善、小集団活動を通じてこのたびベリリウムのリスクレベルを5から3に低減させた。

2 オフセット印刷工場におけるVOC排出の見える化とその対策

あさひ高速印刷(株)
代表取締役

岡 達也

9:50

印刷工場内にオフセット印刷機用VOC警報器を設置することで、インキローラー洗浄時などに多くのVOCが発生していることが判明した。従来は見えなかったVOC排出を見える化し、溶剤等の見直し、空気の流れをコントロールすることで労働環境の改善を行った。

3 安全衛生Web管理システムの開発

国立大学法人 愛媛大学 城北事業場
全学総括安全衛生管理者補佐

浜井 盟子

10:10

大学における安全衛生管理の難しさは、化学物質を取り扱う作業の多様性(種類・量・時間等)と作業者の流動性にある。作業環境管理(作業環境測定、掲示等)・作業管理(作業記録等)・健康管理(特殊健康診断等)の一元管理のためのWebシステムを開発したので紹介する。

4 化学物質リスクアセスメントによる有機溶剤の管理報告

(株)新陽社 多摩境テクノセンター
総務部 庶務課 課長

広瀬 滋子

10:30

製品を構成するプリント基板の塗布作業に有機溶剤を使用していたが、化学物質のリスクアセスメントの実施により、有害性の低い代替品が判明した。これを採用したことで、作業者のばく露リスクの低減および局所換気装置の改修工事が不要となり、約1,000万円の経費を節減できた。

(10:50~11:00休憩) 11:00

講演 知ること ～セレンディピティーと待ち構えた知性～

筑波大学名誉教授
ノーベル化学賞受賞(2000年)

白川 英樹

2000年にノーベル化学賞を受賞された白川先生より、ご自身の小学生から大学院生まで21年間の勉学、その後34年間の研究から得た経験を踏まえて、“知ること”はどういうことかについて、導電性高分子発見の経緯やノーベル化学賞受賞のエピソードを交えたお話をいただきます。

(12:00~13:00昼休み) 13:00

5 化学物質リスクアセスメントシステムの構築と作業環境改善

東海旅客鉄道(株) 新幹線鉄道事業本部 浜松工場
車体センター 車両係

三輪 泰朗

車両修繕材料は化学物質含有品も多く、法令の一部改正に伴い、工場のリスク評価構築は急務と言えた。そこで短時間で評価可能なシステムを作成した。評価の効率化により、多くの製品の評価と代替化を進め作業環境改善を実現した。システムの展開も図り社内の環境改善を推進した。

特別報告 化学物質対策の最近の動向について

厚生労働省 労働基準局
安全衛生部 化学物質対策課長

奥村 伸人

13:20

近年の職業がん事案や、化学物質のリスク評価に関する最近の動きなど、化学物質対策の動向について講演する。

13:50(13:50~14:00休憩)

化学物質管理活動分科会

化学物質管理実践講座

化学物質のリスクアセスメントにおける リスク評価手法の選択のポイント

国立大学法人 東京工業大学
大学マネジメントセンター 特任教授
(日本産業衛生学会 産業衛生技術部会 個人ばく露測定に関する委員会委員長)

橋本 晴男

中央労働災害防止協会
労働衛生調査分析センター
(日本産業衛生学会 産業衛生技術部会 個人ばく露測定に関する委員会副委員長)

山田 憲一

14:00

化学物質のリスク評価の具体的な手法は、国等から多くのものが公開されている。本講座では、国や学会のリスク評価手法開発のための検討会の委員としての経験を踏まえて、コントロール・バンディングなどの実測値を用いない手法や検知管などの簡易測定器による実測値を用いた手法について、手法の特徴やその選択のポイントなど、実践に役立つ情報提供を行う。

15:30

メンタルヘルス／健康づくり分科会

会場 神戸国際展示場 1号館 2階A (神戸市中央区港島中町6-1 1-1)

11月9日(木) プログラム(9:00開場)

9:30

① ストレスチェック後の面談強化と情報共有によるメンタルヘルスへの計画的な取り組み

住友電装(株) 津製作所
安全環境グループ 健康づくり推進チーム チームリーダー
富士原 美保子

メンタル不調者の増加を受け、ストレスチェック後の職場面談強化、カウンセリング充実、関係者間での気がかり者情報共有、組織として衛生管理者会議発足等3年間でメンタル休業者が約3割減少した。今後は一次予防を重点に、メンタルヘルス検定を導入し自主自律の風土づくりを強化する。

9:50

② ストレスチェックサービスの初年度実績について

(一社)姫路市医師会
事業推進部 産業保健課

塩川 綾子

ストレスチェックの実施は、事業場と産業医ならびに実施機関との連携が重要との判断から、事業場への支援体制と産業医への支援体制に重点を置き、本会は2種類の説明書を作成し、実施事業場に対し、マンツーマン体制で支援してきた活動を報告する。

10:10

③ ストレスチェック組織分析結果を受けての、劇的な改善事例報告

カルソニックカンセイ(株) 吉見工場
総務チーム 看護師

中川 裕子

高ストレス傾向があり、その他にも課題があるチームに対し、2013年度から、外部コンサルタントを交えた組織改善を実施してきた。本事例は上司と部下が遠距離(関東と九州)だが約1年間にわたり、行き来をしながら改善活動を行い劇的な改善につながったケースを紹介する。

10:30

④ ストレスチェックシステムを活用した快適職場づくり

小田急電鉄(株) 秦野電気システム管理所
電気検査長

十亀 徳夫

弊社が2015年に導入したストレスチェックシステムを活用して、自職場と全国平均の「健康リスク」を比較した結果、明確となった自職場環境の「強み」と「弱み」を詳細に分析して具体的な施策を立て、働きやすい快適な職場づくりへ向けた取り組みについて報告する。

(10:50~11:00休憩) 11:00

特別報告 ストレスチェック制度の実施状況と結果の活用について

中央労働災害防止協会
健康快適推進部 審議役 研修支援センター 所長
三觜 明

ストレスチェック制度開始1年後の実施状況と、集団集計分析の結果に基づく「職場環境改善」への活用方法について事例を交えて紹介する。

11:30

化学物質管理
メンタル等

メンタルヘルス／健康づくり分科会

11:30

5 健康診断情報を活用した職場環境改善の取り組み

東海旅客鉄道(株) 健康管理センター
名古屋健康管理室 保健師

三上 紗織

心と体の不調を未然に防止するためには、良好な職場環境が重要である。当社は健康診断情報を活用し、病気の予防や健康づくりの視点から職場主体で環境改善に取り組むことを支援し推進している。その概要と支援策について検討した結果を報告する。

11:50

6 海外駐在員への健康サポート活動の取り組みについて

富士通テン(株)
健康推進室 健康推進チーム

池松 明子

心身の疾病の未然防止には本人の健康に対する意識の向上が重要である。グローバルに業務を展開するなかで海外駐在員の役割の重要性は増しているが、地域性による健康維持の困難さは問題となっている。海外駐在員に対して実施している健康意識の向上につながる支援活動を紹介する。

(12:10~13:00昼休み) 13:00

特別報告 働き方改革実行計画に基づく労働衛生行政の施策について

厚生労働省 労働基準局
安全衛生部 労働衛生課長

武田 康久
ほか

平成29年3月に決定された働き方改革実行計画に基づく、労働衛生行政の施策概要について趣旨・内容を解説するほか、働き方改革実行計画に基づく施策のうち、治療と仕事の両立支援に関して、有識者による事例紹介等を交えながら解説する。

14:00

7 スマホアプリを活用して突然死のリスクを減らそう(血管年齢を調べよう)

東京急行電鉄(株) 鉄道事業本部 運輸営業部
あさみ野駅 駅務係

城村 聖香

昨今、若年層の血管トラブルによる突然死を聞く。血管の老化や生活習慣が原因と言われ、特に血管の早期ケアが重要であるため、今回、誰でも簡単に測定できるアプリを活用し、まず自分の血管年齢を知り、今後の生活習慣改善に役立て、突然死のリスクを減らす取り組みを行った。

14:20

8 (株)神戸製鋼所の健康経営に向けた事例紹介

(株)神戸製鋼所 神戸本社
人事労政部 安全健康グループ

松下 玲花

当社は「安全・衛生・健康は事業経営の基盤であり、全ての事業活動に優先する」との理念に基づき、疾病の早期発見・早期対応、生活習慣の改善が重要との認識に立ち、予防への活動展開を一層強化して取り組んでいる。2年連続で健康経営銘柄に認定された当社の活動事例を紹介する。

14:40

9 職場の健康づくり活動への取り組み事例

三菱電機(株) 先端技術総合研究所
総務部 総務課

三谷 由香

当社では健康づくりを目的とした「MHP21活動」を展開しており、グループ全体で目標値を定め各種取り組みを行うとともに、事業所単位でも独自の施策を実施している。当所では運動習慣、適正体重、歯の手入れ等の取り組みで成果をあげており、その内容を紹介する。

(15:00~15:10休憩) 15:10

10 「はつらつ体操」導入による健康寿命延長と転倒災害予防

旭硝子(株) 鹿島工場
総務グループ 健康管理センター

長谷川 敏絵

「健康寿命を延ばしたい」「転倒災害を予防したい」という想いから、工場で働く幅広い年代の人が参加できるような4分間の簡単な「はつらつ体操」を考案して、協力会社も含めた工場全体に導入した活動事例を紹介する。近隣地域・他企業にも活動展開している。

15:30

11 昼休みに職場単位の10分運動で心身ともに健康になる取り組み～アクティブレスト～

(一社)10分ランチフィットネス協会
専務理事

吉田 まりえ

昼休みに職場単位で10運動を週2~4回実施するアクティブレスト。社員の身体活動量の増加、活力アップ、職場のコミュニケーションが良くなり、職場のメンタルヘルスや労働生産性が向上する効果がある。(株)正興電機製作所と産業医科大学との2年間の共同研究の成果を報告する。

15:50

メンタルヘルス／健康づくり分科会

12 「体幹鍛えて 減らそう体重 目指そう筋力アップ」肥満解消に向けた運動プログラム

京王電鉄(株) 若葉台工場
指導技術掛

和田 真太郎

15:50

所属員の定期健康診断における肥満の割合は、職場全体の約4割を占め、平均年齢も49歳と高い。運動したい者は多いが個人では三日坊主で長続きしない。そこで、肥満解消および怪我の予防を目的とした「イスを使ったストレッチ運動」に全員で取り組んだ。

13 従業員の高年齢化に対応した「いきいき健康プログラム」の全社展開

トヨタ自動車(株)
安全健康推進部 健康推進室 運動サポートグループ グループ長

井本 貴之

16:10

60才以降も「いきいきと働く」ための環境整備として、特に生産ラインに従事する従業員の体力づくり施策を2015年4月より全社展開した。全社展開に至るまでの経緯や現在の取り組みを紹介するとともに、「いきいきと働く」ための施策定着に向けた課題について言及する。

みんなで取り組む 「STOP!転倒災害」

近畿地区THP推進交流会
(大阪ガス(株) 人事部 安全健康推進チーム
大阪ガスグループ健康開発センター)

浦川 正博

16:30

近畿地区THP推進交流会とは、近畿圏内企業の安全衛生スタッフが情報交換および研究する場として1984年から継続活動している異業種交流の会である。今回は3年前からテーマとしている「転倒災害防止」について、メンバー企業が切磋琢磨しながらPDCAを回している内容を報告する。

特別報告

17:00

11月10日(金) プログラム(9:00開場)

14 当社神戸地区における健康づくり活動報告

三菱重工業(株) 神戸造船所
健康管理グループ 主任保健師

山本 千代

9:30

40歳以上は、特定保健指導が整備され改善傾向にあるが、39歳以下のBMI有所見率が高く早期介入の必要性を感じた。若年層が興味を持ち無理なく継続した行動変容ができるよう支援方法を工夫した。また、評価に苦労したが、朝食を摂ることが改善につながる事がわかった。

15 内臓脂肪をためない食事法「スマート和食」を用いた、職域での集団アプローチの事例

花王(株)
ソリューショングループ マネージャー

森本 聡尚

9:50

生活習慣改善を促す集団アプローチはとても難しい。内臓脂肪測定を行うことで「自分ごと化」し、「スマート和食」に基づくセミナーと社員食堂での昼食提供で、昼食の改善はもちろん、昼食以外の食事にも改善が見られた。結果として、健康意識の向上と体重・内臓脂肪の低減を実現した。

16 体重減少がみられた社員データの活用と外来通院中の重症化予防を含めた保健指導の展開

(株)本田技術研究所 四輪R&Dセンター
管理室 健康管理センター

出口 聡美

10:10

当事業所は食事摂取と運動のアンバランスから肥満者が増加している。今回、体重減少を成功させた社員にヒアリング調査し、この解析結果を保健指導に活用した。また、併設している企業内診療所との連携を構築し、通院中の社員に対しても重症化予防対策を展開しているので紹介する。

17 職場の健康づくりについて～ココロと体の健康づくり～

九州旅客鉄道(株) 宮崎総合鉄道事業部
宮崎乗務センター 運転士

森山 翔太

10:30

糖尿病等を始めとして数多くの疾患の原因になる肥満。健康診断の結果を基に当職場の肥満率を調査すると、全国平均よりはるかに高いことがわかった。そこで、様々な疾患につながる乗務員の肥満を解消するために職場一体となって取り組み、運動習慣や食生活改善のきっかけを作ることができた。

(10:50～11:00休憩) 11:00

18 メンタルヘルスケアの包括的な推進体制の構築

旭化成メディカルMT(株)
大分環境安全部 健康管理室

國本 政瑞沖

これまでメンタルヘルスケアを健康管理部門が主体となって実践していたが、今回各部門が参画し事業所全体で取り組む運用体制を構築した。特に職場のストレス分析および個別面談結果を指標の軸に、各職場でPDCAを着実に行うことを主眼に置いて展開したため、その活動内容を報告する。

11:20

メンタルヘルス／健康づくり分科会

11:20

19 キャリア中途入社者を中心としたメンタルヘルスケア対策について

住友ゴム工業(株)
人事総務部 健康管理室

細川 広美

事業拡大のためキャリア中途採用の増加に伴い、メンタルヘルス不調者が急増。関係部門と協業して、①入社時の保健師面談(個人)、②メンタルヘルスケア教育強化等の一次予防を重点に対策した結果、不調者が減少。また産業保健スタッフ・メンタルヘルス担当者の役割が明確になった。

11:40

20 参加型研修による職場のメンタルヘルス向上へのアプローチ

西日本旅客鉄道(株)
広島健康増進センター

二川 夏子

平成26年から「管理監督者メンタルヘルス研修のマニュアル」を参照してエビデンスを踏まえ、より実効性の高い研修を目指してきた。平成28年の受講者数は324名。アンケート回答者は242名。研修効果を向上させるための工夫と、アンケート結果から今後の取り組み課題を報告する。

(12:00～13:00 昼休み) 13:00

安全衛生に活きる健康経営 ～安全衛生スタッフは健康経営とどう向き合うか～

パネリスト ジャパンケーブルキャスト(株) 取締役企画管理本部長

藤沢タクシー(株) 代表取締役社長

司会 NPO法人 健康経営研究会 東京事務局 ((株)ルネサンス 健康経営推進部 次長)

佐藤 隆一
根岸茂登美
樋口 毅

「健康経営」は、NPO法人 健康経営研究会の登録商標です。

15:00

定期購読が
お得です!



中災防 定期刊行物のご案内

安全衛生の基本をわかりやすく

緑十字ポスター



安全

2017年1月号(一例)

労働衛生

- ◎毎月1回・2枚(安全の内容1点・労働衛生の内容1点)発行
- ◎年間予約購読料4,656円(税込・送料サービス)
- ◎1部定価216円(本体200円・送料別)

ここが
特徴

- 表示しやすいちよつと小さめのA2判(594×420mm)
- 「安全衛生」の基本をわかりやすく標語にしています
- 標語の英訳入り

身近なテーマをイラストで解説

安全衛生かべしんぶん



- ◎毎月2回(5日・20日)発行 ◎A2判変型(566×420mm)
- ◎年間予約購読料3,960円(税込・送料サービス)
- ◎1部定価216円(本体200円・送料別)

ここが
特徴

- 一人ひとりに役立つテーマを取り上げ、イラストを使いポイントをついた対策をわかりやすく解説。
- バックナンバーのPDF版を販売しています。

●年間予約購読料は1年単位の前払い制となります。途中解約による返金はできません。●お申込みいただき次第、商品とは別に請求書と専用の郵便振替用紙をお送りいたします。●年間予約購読のお申込み・お問合せは、中災防 出版事業部 業務管理課 FAX: 03-3452-2480 TEL: 03-3452-6702 またはお近くの労働基準(労務安全衛生)協会(連合会)まで。●バックナンバーのお申込み、または見本をご希望の方は、中災防 出版事業部 業務管理課までご連絡ください。●一部売りなど(年間予約購読以外)のご購入の場合、送料は別途規定の料金をいただきます。※年間予約購読料は平成29年4月1日現在の料金です。

ポスターセッション

会場 神戸国際展示場 1号館 1階ロビー (神戸市中央区港島中町6-11-1)

今回の全国産業安全衛生大会においては、新たな企画として安全衛生に関する研究内容を取りまとめたポスターによる発表を行います。各発表については会場において分科会期間中(11月9日(木)~10日(金))を通じて掲示するほか、発表者による説明・質疑応答の時間を記載の時間に設けます。

11月9日(木) 13:00より説明・質疑応答

天井クレーン高所作業のリスクゼロ対策 ～車輪スリップ防止機(砂撒き機)の開発～

JFE物流京浜(株)
商品物流部 倉庫室 熱延班 CLM

佐藤 栄一

弊社が運転管理している天井クレーンは稼働率が高く、生産の阻害要因であるグリス漏れ及び高湿度による車輪スリップ防止は本命題であった。さらに高所での作業でありリスクが非常に高く、全員が改善策を模索していたが、全員のアイデアを集積し、砂撒き装置を完成させ高所作業リスク“ゼロ”を達成した。

作業環境中の粉じん測定とばく露対策

(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
作業環境研究グループ 主任研究員

山田 丸

現在、作業環境中の粉じん濃度測定の精度向上に関する研究に従事している。研究で培った知識を織り交ぜながら、作業環境中の粉じん測定(主に光散乱式粉じん計の原理や使用上の注意点)とばく露対策(主に呼吸用保護具の種類、選択および使用時の注意点)に関して発表する。

11月9日(木) 14:00より説明・質疑応答

規則改正に対応した足場の 安全技術に関する研究

(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
労働災害調査分析センター 上席研究員

高橋 弘樹

足場からの墜落・転落による災害発生件数が多いことから、足場における安全基準が再検討され、平成21年に規則が改正された。この改正により、新たに手すり等を設けることが義務づけられた。本発表では、規則改正に対応した足場の強度に関する検討結果について報告する

ストレスチェック制度の実施状況と結果の 活用について

中央労働災害防止協会
健康快適推進部 審議役 研修支援センター 所長

三觜 明

ストレスチェック制度開始1年後の実施状況と、集団集計の結果に基づく「職場環境改善」への活用方法について事例を交えて紹介する。(メンタルヘルス/健康づくり分科会にて特別報告も行う)